

# 庄原市男女共同参画アンケート

調査結果[速報版]

平成 20 年 5 月  
庄原市女性児童課

## ～もくじ～

|                        |     |
|------------------------|-----|
| アンケートの実施について.....      | 2   |
| 回答者の属性.....            | 3～  |
| 家庭や地域における役割分担について..... | 6～  |
| 仕事や職場の環境について.....      | 13～ |
| 子育てについて.....           | 21～ |
| 使用したアンケート.....         | 35～ |

## アンケートの実施について

庄原市における、男女共同参画に関する市民意識や行政に対する要望を把握し、今後の施策に反映していくため、アンケート調査を実施した。

なお、庄原市男女共同参画プランにおいて「テーマや対象者を変えながら毎年アンケート調査を実施する」ことを明記している。

### 1. 対象

平成20年3月1日現在、庄原市内の保育所（私立、公設民営を含む）と幼稚園に在籍している児童の保護者

### 2. 対象数

962世帯（ただし、各世帯のうち保護者1名が回答）

### 3. 実施期間

平成20年3月11日（火）～3月21日（金）

### 4. アンケート内容※

- ・家庭や地域における役割分担について
- ・仕事や職場の環境について
- ・子育てについて

### 5. 配布方法

保育所、幼稚園の園児を通じて保護者へ配布

### 6. 回収方法

保育所、幼稚園に回収ボックスを設置する  
郵送回収（料金別納郵便を利用）

### 7. 回収数

525通（回収率 54.24%）

※平成18年3月に実施した「庄原市男女共同参画に関する市民アンケート調査」と同じ設問を含める。（同じ設問には問題番号後に★印）

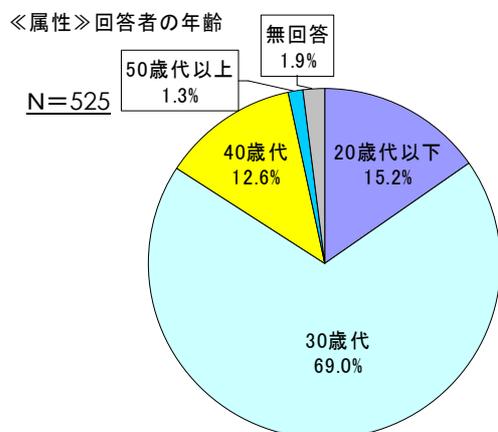
実施期間 平成18年3月10日～22日

調査対象 庄原市在住の20歳以上の男女2,000人（男女各1,000人）を無作為抽出

回収結果 有効回収数 1,126（回収率 56.3%）

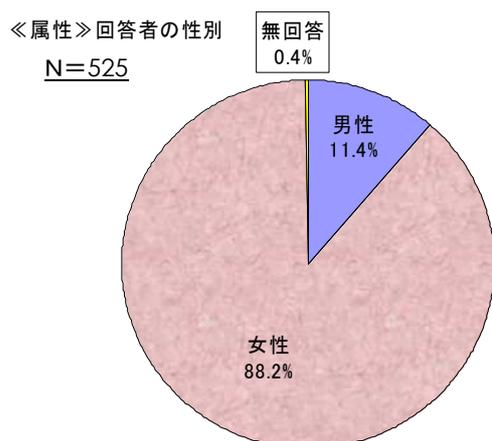
## 回答者の属性

### Q1.年齢



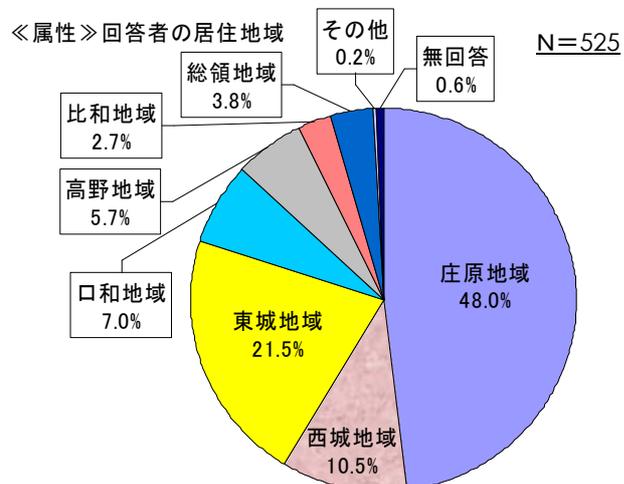
「30歳代」が約7割を占める。

### Q2.性別



男女どちらの保護者が回答するかは各世帯で自由としていた。  
女性が約9割、男性は約1割となった。

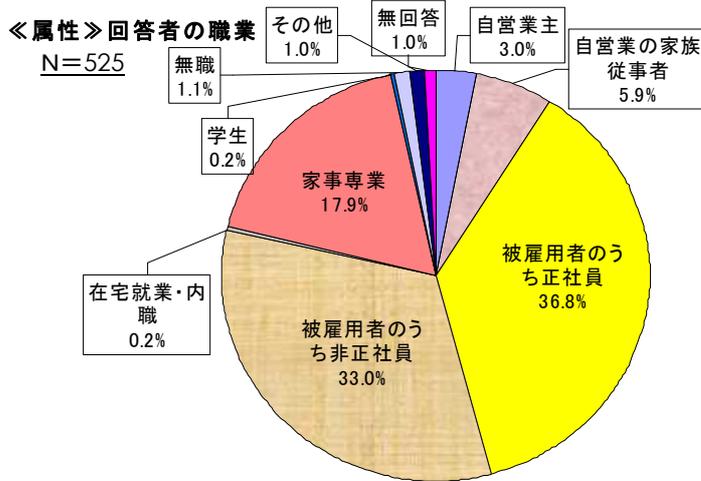
### Q3.居住地域



庄原地域が約半数、東城地域が約2割を占めている。  
おおむね、対象世帯と同じ構成割合になった。

| 地域 | 差出割合  | 回収割合  |
|----|-------|-------|
| 庄原 | 50.5% | 48.0% |
| 西城 | 8.3%  | 10.5% |
| 東城 | 23.1% | 21.5% |
| 口和 | 5.6%  | 7.0%  |
| 高野 | 5.2%  | 5.7%  |
| 比和 | 2.6%  | 2.7%  |
| 総領 | 4.7%  | 3.8%  |

Q4.職業



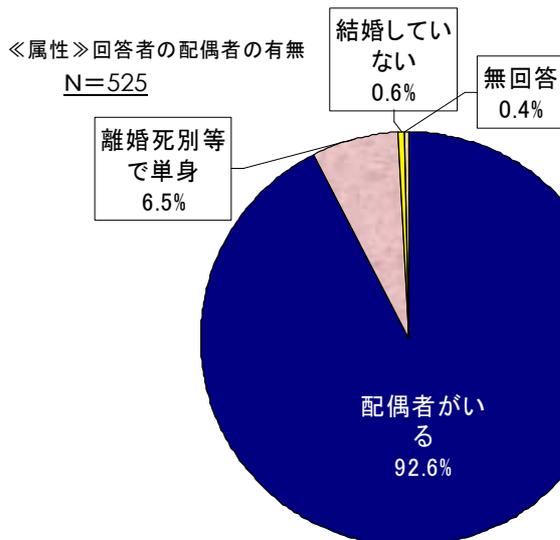
「被雇用者」「被雇用者のうち非正社員」「家事専業」の順に多い。性別で分けると、非正社員の女性が最も多い。(下表)

|                              | 男性       | 女性         | 無回答     |
|------------------------------|----------|------------|---------|
| 自営業主(農林水産業・商工サービス業・自由業)      | 6(1.1%)  | 10(1.9%)   | 0       |
| 自営業の家族従事者(農林水産業・商工サービス業・自由業) | 8(1.5%)  | 23(4.4%)   | 0       |
| 被雇用者のうち正社員(会社員・公務員・その他勤め人)   | 44(8.4%) | 149(28.4%) | 0       |
| 被雇用者のうち非正社員(パート・アルバイト・契約社員)  | 0        | 173(33.0%) | 0       |
| 在宅就業・内職                      | 0        | 1(0.3%)    | 0       |
| 家事専業                         | 0        | 94(17.9%)  | 0       |
| 学生                           | 0        | 1(0.3%)    | 0       |
| 無職                           | 2(0.4%)  | 4(0.8%)    | 0       |
| その他                          | 0        | 5(1.0%)    | 0       |
| 無回答                          | 0        | 3(0.6%)    | 2(0.4%) |

※割合については、小数点下2ケタで四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります(以下同様)

属性のうち「被雇用者のうち正社員」は以下「被雇用者」と読み替え。

Q5.配偶者の有無

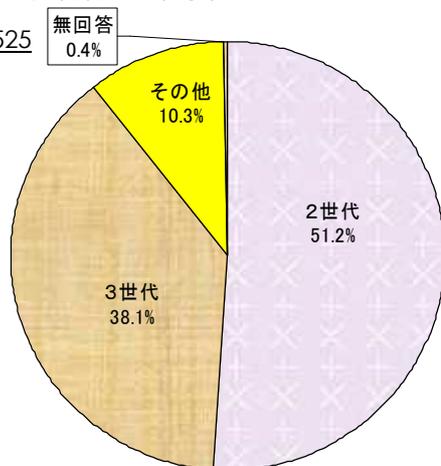


有配偶者が、全体の9割以上を占めている。

## Q6.同居家族の世代構成

《属性》回答者の同居家族

N=525



2世代の家庭が約半数、3世代の家庭が約4割となった。

その他内訳・・・

4世代(40、7.6%)

2世代と自分または配偶者の祖父母と同居(2、0.6%)

2世代と夫の兄弟と同居(1、0.3%)

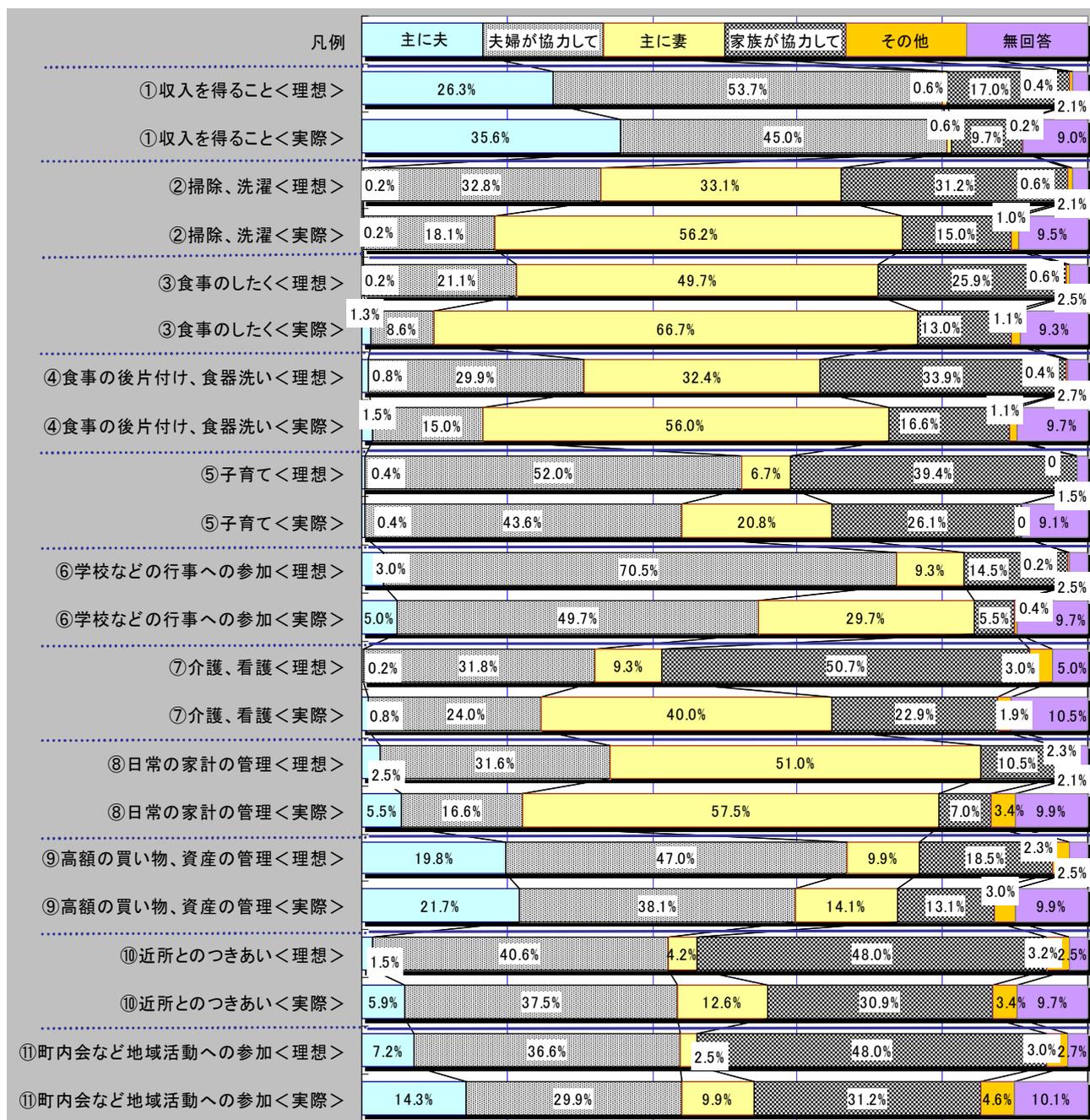
自分と孫(1、0.3%)



## 家庭や地域における役割分担について

問1★ 家庭において、収入を得ることや家事、子育て、介護・看護、地域活動への参加など、誰が担当するのが望ましいと思いますか。また実際にはどうしていますか。

《問1》家庭における役割分担(理想と実際)(N=525)

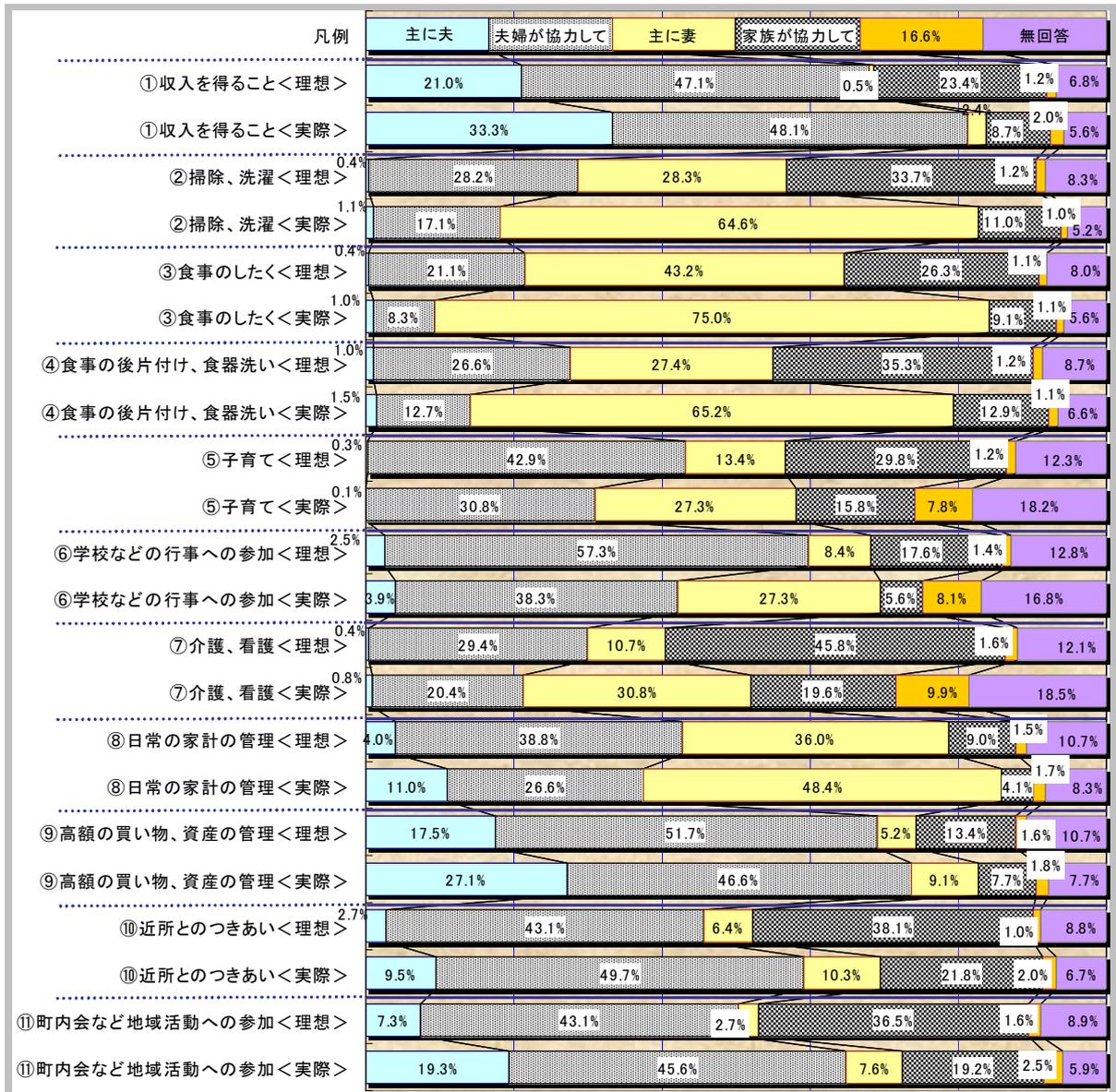


### その他の意見・・・

- ・夫婦や家族の役割分担については、各家庭の考え方は様々ですので、それぞれがちゃんと納得した形なら、どんなでもいいと思います。
- ・夫は、仕事が遅いので、家事や育児への協力は無理に近いが、時間があれば協力して行える。

理想では「夫婦が協力して」「家族が協力して」が多くなっているが、実際には「主に妻」が果たす役割が多いようである。

<参考>平成 18 年 3 月実施アンケート結果との比較 (N=1,126)

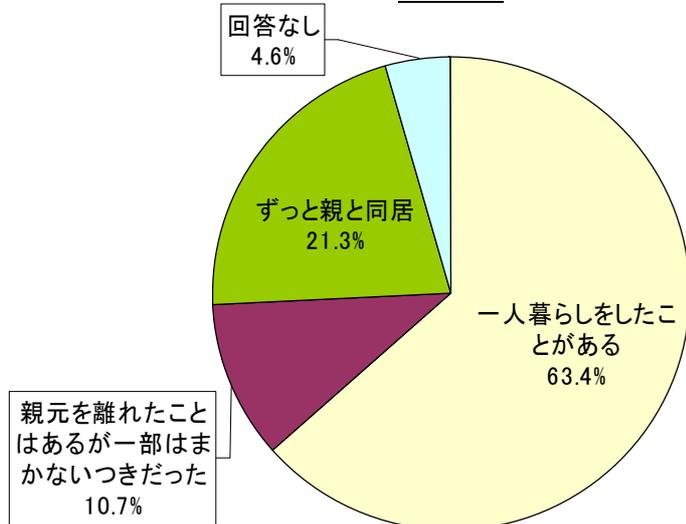


平成 18 年のアンケート結果と比較してみると、<理想>のうち大きく増加している項目は「学校などの行事への参加は夫婦が協力して」「日常の家計の管理は主に妻」「町内会など地域活動への参加は家族で協力して」であり、<実際>のうち大きく増加しているものは「子育ては夫婦が協力して」「学校など行事への参加は夫婦が協力して」「町内会など地域活動への参加は家族が協力して」となった。

また、<理想>のうち大きく減少している項目は特になく、<現実>のうち大きく減少しているのは「日常の家計の管理は夫婦が協力して」「近所とのつきあいは夫婦が協力して」「町内会など地域活動への参加は夫婦が協力して」である。

問2 あなたは現在の配偶者と結婚する前に親元を離れてひとりで生活した経験がありますか。

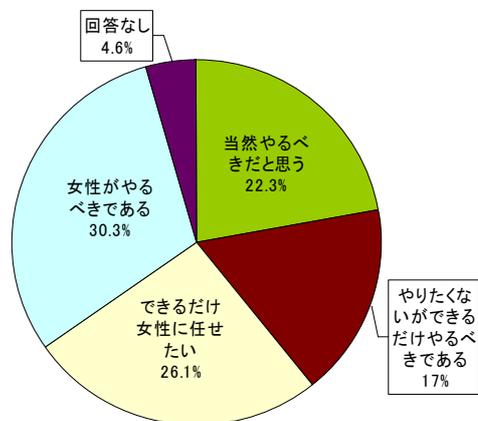
《問2》ひとり暮らしの経験 (N=525)



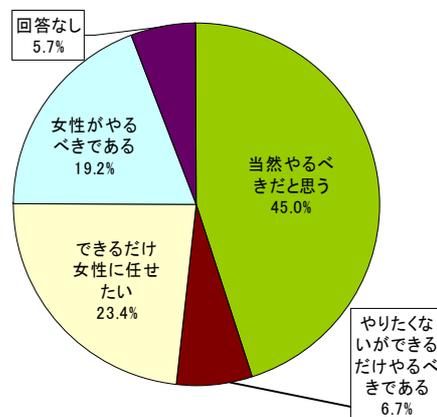
6割以上の方がひとり暮らしの経験があり、自分で家事などの生活をしていたと思われる。

問3 あなたの育った家庭では、男性が家事・子育てをすることに対してどのような考えを持っている(持っていた)と思いますか。

<家事>家庭での考え (N=525)



<子育て>家庭での考え (N=525)



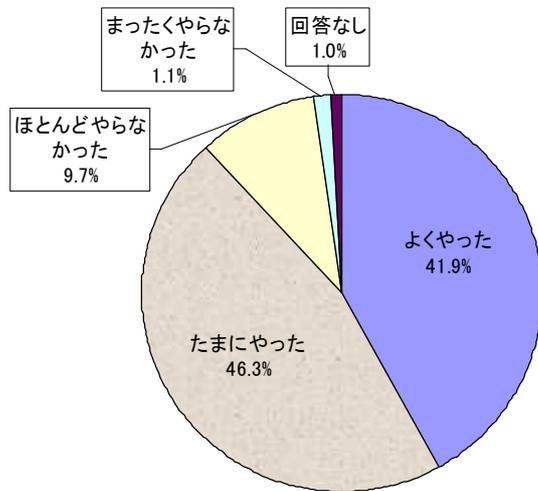
家事は「女性がやるべきである」  
子育ては、男性も「当然やるべきだと思う」  
がそれぞれ一番多い。

その他の意見・・・

・自営業でしたので助け合いながらしていました。しかし主に母がしていました。当然とは極端ですが、互い様で協力していました(どちらにも共通)

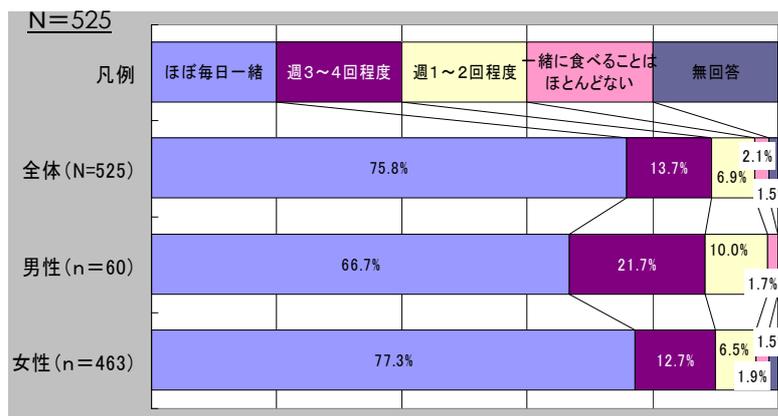
問4 あなたは子ども時代、家庭で「お手伝い」をしましたか。

《問4》お手伝いの経験 (N=525)



「たまにやった」「よくやった」の順に多くなっている。「ほとんどやらなかった」「まったくやらなかった」層は約1割である。

問5 あなたが平日にご家族と一緒に夕食を取るの平均して週何日くらいですか。

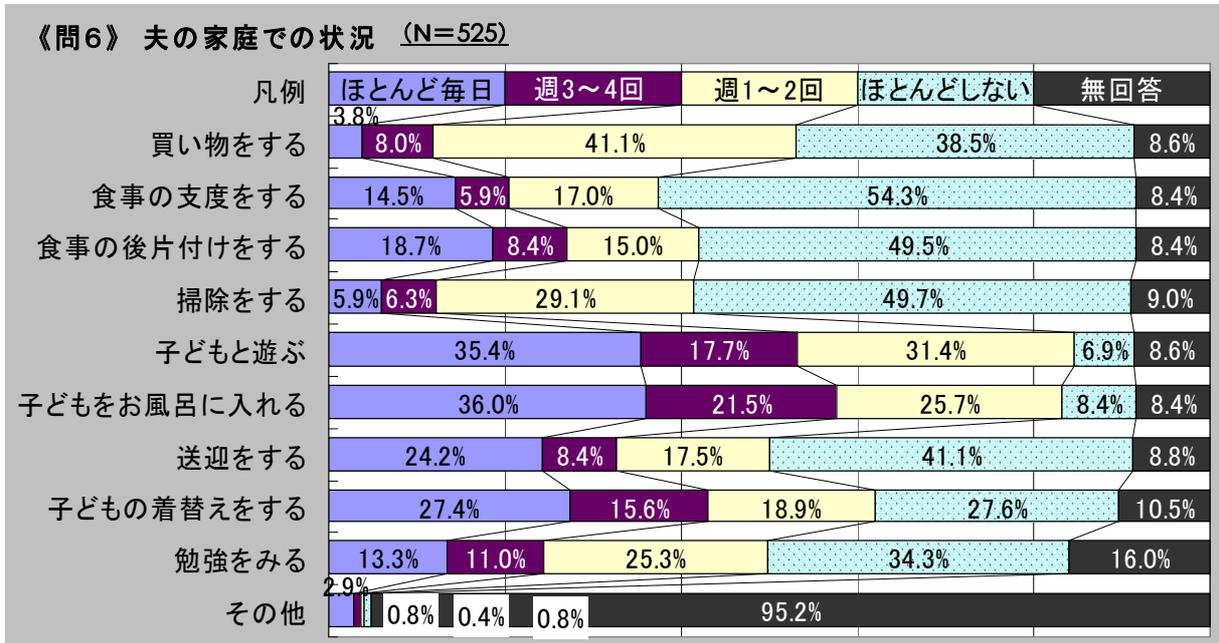


「ほぼ毎日」が全体の4分の3を占めた。

性別で分けると、男性のほうが女性よりも「ほぼ毎日」の割合が低い。また職業別に分類すると(下表)、「被雇用者」や「被雇用者のうち非正社員」でも、「ほぼ毎日」が多いが、「一緒に食べることはほとんどない」人も少数いる。

|             | ほぼ毎日一緒      | 週3~4日程度    | 週1~2日程度   | 一緒に食べることはほとんどない | 無回答       |
|-------------|-------------|------------|-----------|-----------------|-----------|
| 自営業主        | 15 (93.8%)  | 0          | 1 (6.3%)  | 0               | 0         |
| 自営業の家族従事者   | 27 (87.1%)  | 3 (9.7%)   | 1 (3.2%)  | 0               | 0         |
| 被雇用者        | 128 (66.3%) | 44 (22.8%) | 14 (7.3%) | 5 (2.6%)        | 2 (1.0%)  |
| 被雇用者のうち非正社員 | 138 (79.8%) | 14 (8.1%)  | 15 (8.7%) | 3 (1.7%)        | 3 (1.7%)  |
| 在宅就業・内職     | 1 (100.0%)  | 0          | 0         | 0               | 0         |
| 家事専業        | 77 (81.9%)  | 9 (9.6%)   | 4 (4.3%)  | 2 (2.1%)        | 2 (2.1%)  |
| 学生          | 1 (100.0%)  | 0          | 0         | 0               | 0         |
| 無職          | 5 (83.3%)   | 1 (16.7%)  | 0         | 0               | 0         |
| その他         | 4 (80.0%)   | 0          | 1 (20.0%) | 0               | 0         |
| 無回答         | 2 (40.0%)   | 1 (20.0%)  | 0         | 1 (20.0%)       | 1 (20.0%) |

問6 [女性の場合]あなたの夫[男性の場合]あなたは日常、家庭で次のことについてどれくらいしていますか。

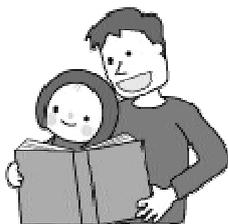


その他内訳

|         |  |
|---------|--|
| ほとんど毎日  | お風呂掃除(1)、ごみ出し(4)、絵本の読み聞かせ(2)、休日に面倒をみる(1)、犬の散歩(1)、子どもの寝かしつけ(2)、洗濯(干すことを含む)(4) |
| 週に3~4回  | 工作や畑仕事(1)、子どもになぜ叱られたかをきちんと教える(1)、洗濯、ゴミ出し、子どもの歯磨き、子どもの病院へのつきそい(1)、洗濯物をたたむ(1)  |
| 週に1~2回  | キャッチボールをする(1)、習い事への送迎(1)   |
| ほとんどしない | まったくしない!(1)  |

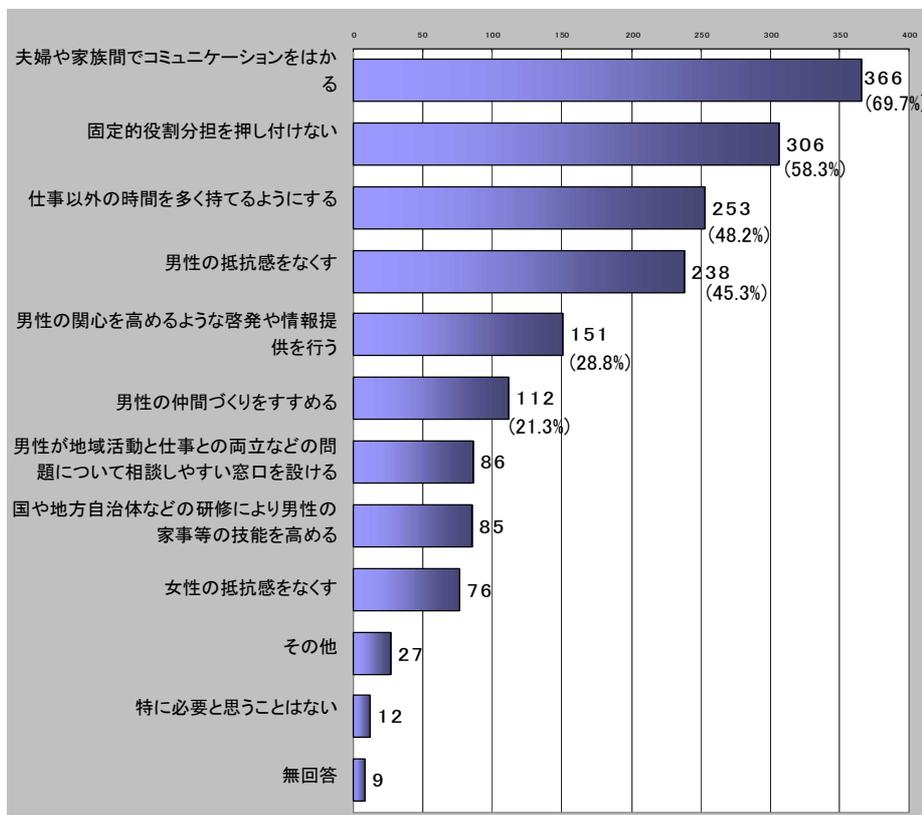
|     |   |
|-----|---|
| その他 | <p>&lt;全体的に&gt;体調の悪いとき全てしてくれる</p> <p>&lt;送迎をする&gt;時間的に難しいため。無理な時は母が協力してくれる。</p> <p>&lt;勉強をみる&gt;トランプ・子どもがまだ小さいので、勉強はありませんが、本を読んでもくれます</p> |
|-----|---|

夫が「ほとんど毎日している家事」は、「子どもと遊ぶ」「子どもをお風呂に入れる」が多い。「ほとんどしない」ことは、「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「送迎」「子どもの着替え」「勉強をみる」である。



問7★ 男性と女性がともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参画していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

《問7★》男女ともに参画するために必要なこと(N=525)



「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかる」が一番多く、次いで「固定的役割分担を押し付けない」「仕事以外の時間を多く持てるようにする」「男性の抵抗感をなくす」の順に多い。

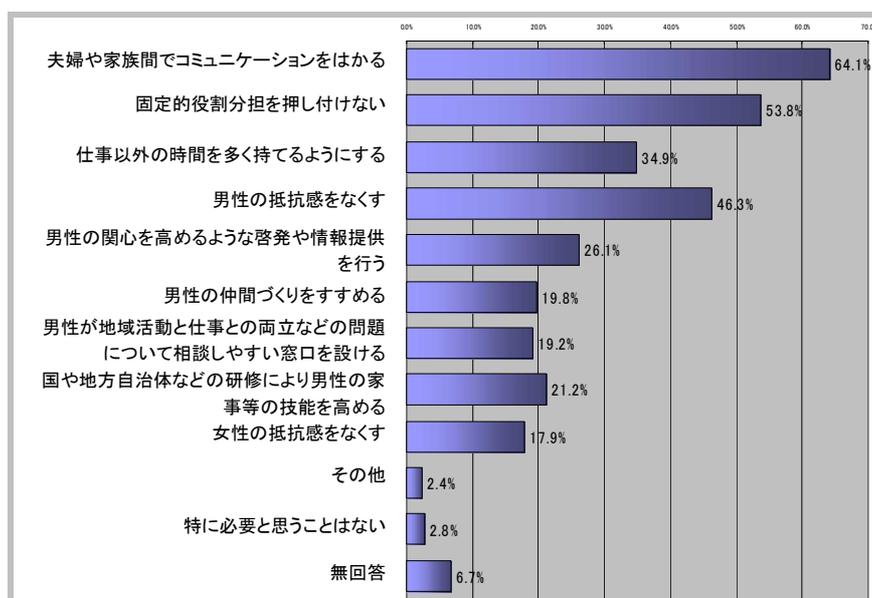
その他の意見・・・

- ・雇用者が理解する (40歳代・女性・被雇用者)
- ・年寄りの意識を変えること (20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・職場の理解、残業を減らすなどの措置をとる。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・労働時間が長い。家事や育児の時間が少ない。庄原は田舎のせいか、雇う側に有利になっていて残業代とかも少ない。ハローワーク等もっと指導を徹底してほしい。(40歳代・女性・家事専業)
- ・小さい時から男女関係なく家事、育児などやっていこうとしつけていく事が大切だと思う (30歳代・女性・被雇用者)
- ・勤務している会社で利用できる子どもをみてる場所 (30歳代・女性・家事専業)
- ・男は仕事をしなければならないという世間の考えがあるので、その問題を解決する必要がある。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・何が大切か「一番は子どもの心」と家族で思える社会づくり。(20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・地域住民(年寄り)の昔ながらの考え(昔は、女は家で子育てをするものだった)を押し付けないこと。(20歳代以下・女性・被雇用者)
- ・国や都道府県等の行政の政策で、夫(父親)が家庭で過ごせる時間をもっと確保できるように会社側に義務つけること。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)

- ・会社がもっと男性に家事等に参加させるように協力する事が必要（30歳代・女性・被雇用者）
- ・3世代でくらす（20歳代以下・男性・被雇用者）
- ・女性の働く場を広げる。女性の地位向上、管理職は半分程度となるように（30歳代・男性・被雇用者）
- ・民間企業への教育（30歳代・女性・被雇用者）
- ・男が仕事、女が家事子育てをする環境を作ってほしい（30歳代・女性・その他）
- ・男性自身が参加する気がないとだめだ（40歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・同居だと祖父母の考え方や現実との抵抗感をどうにか変える方法が必要（30歳代・女性・被雇用者）
- ・職場に人を増やして超過勤務をしなくてもよい状態にすること（30歳代・女性・被雇用者）
- ・働く男女ともに仕事に追われ、活動がしたくてもできないケースが多いので、転勤、勤務体制などの見直しが必要。制度はあっても、実際利用できない仕事のシステムになっているケースが多いと思う。（30歳代・女性・被雇用者）
- ・本人のやる気（30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・職場で家庭を大切にしている男性を高く評価すること(特に管理者や上司)（30歳代・男性・被雇用者）
- ・お互いがお互いを思いやる心ができるのが一番自然にできる元だと思う（20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・家事、育児、介護に性別は関係ない。するのがあたりまえ。（30歳代・男性・自営業主）
- ・男性自身の意識改革が一番の問題（40歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・男性、女性変わりなく雇用形態上、育児休暇、子看休暇が取りやすい状態にすること（40歳代・女性・被雇用者）
- ・夫は両親が共に働き共に家事をする家庭に育ったからそれを実践しているのだと思う（30歳代・女性・被雇用者）
- ・女性の家事などの負担について理解する必要がある。（30歳代・女性・被雇用者）
- ・自営なので今は無理（30歳代・女性・自営業者の家族従事者）

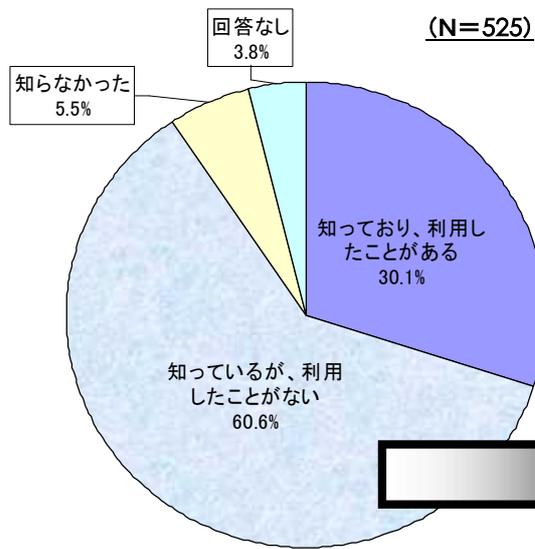
<参考>平成 18 年 3 月実施アンケート結果との比較 (N=1,126)

大きく増加しているものは「仕事以外の時間を多く持てるようにする」、増加しているものは「国や地方自治体などの研修により男性の家事等の技能を高める」であり、減少しているものは「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかる」である。



## 仕事や職場の環境について

問8★ あなたは、育児休業制度をご存知ですか。また利用したことはありますか。

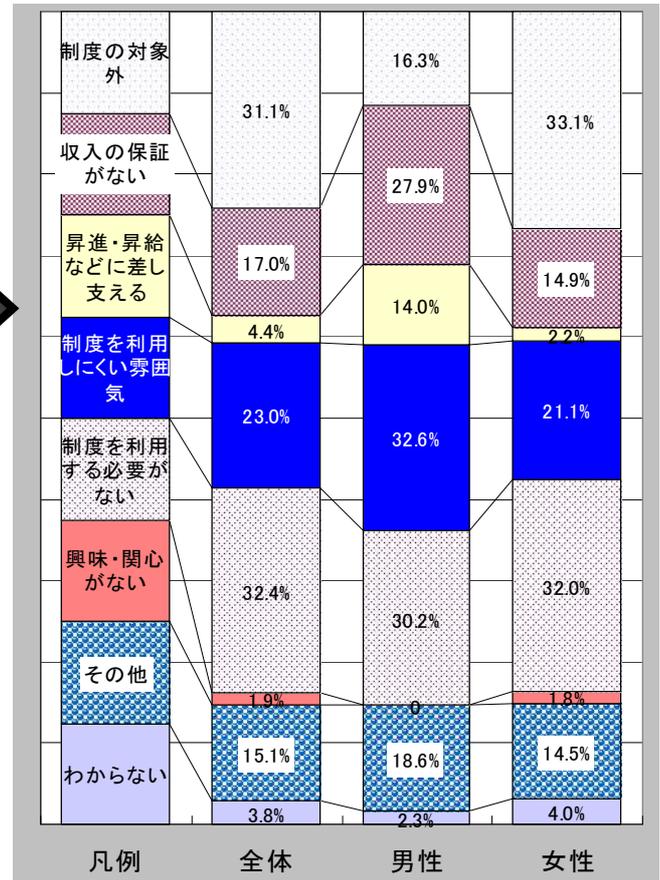


育児休業について、「知っているが利用したことがある」と答えた人は、全体の3割である。「知らなかった」人は5.5%だった。

「知っているが利用した事がない」と回答した人に理由を尋ねたところ、「制度を利用する必要がない」「制度の対象外」「制度を利用しにくい雰囲気」の順で多かった。性別でみると、男性は「制度が利用しにくい雰囲気」、女性は「制度の対象外」が一番多い。

問8-1 利用したことがないのはなぜですか。(いくつでも)

(n=318)



その他の意見…

### 働いていないため(6件)

- ・働いていないので… (20歳代以下・女性・家事専業)
- ・就職していなかったから (20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・現在職についていない為 (30歳代・女性・家事専業)
- ・仕事を辞めていたから (30歳代・女性・被雇用者)
- ・出産時、仕事をしていなかったから (30歳代・女性・被雇用者)
- ・私が専業主婦だったから (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)

### 退職したため(8件)

- ・収入の保障がない、制度を利用しにくい雰囲気があり退職したから (20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・出産後仕事をやめたから (30歳代・女性・家事専業)
- ・出産前に退職した (30歳代・女性・家事専業)

- ・職場が遠く、育児との両立は無理だったから（30歳代・女性・家事専業）
- ・出産時に退職（30歳代・女性・被雇用者）
- ・出産前から自宅安静にしていた為。出産前に退職するよう言われた。（30歳代・女性・被雇用者）
- ・1歳をすぎてからの保育のめども立たず仕事をつづけることも難しかったので仕事をやめた（30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・辞めたから（回答なし・女性・家事専業）

### 会社の理解がない・休める状況にない（12件）

- ・会社の理解がない（20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・仕事を休める状況ではない（30歳代・女性・家事専業）
- ・自分の代わりにしてくれる人がいないため（無医村の歯科医）（30歳代・女性・家事専業）
- ・パートタイマー扱いだっただけ（30歳代・女性・自営業の家族従事者）
- ・1週間くらいは有給でとれたが、それ以上会社としてもとれるような雰囲気になかった。（30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・会社から利用させないと言われた（正社員だった時）（30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・会社が理解を示さないため（30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・人員が少ない等の問題があり無理（30歳代・男性・被雇用者）
- ・経営者の考え方が閉鎖的（40歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・所属していた職場では扱っていないと言われた（40歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・前例がないため（40歳代・男性・被雇用者）
- ・育休を利用すると、正社員からパートへ格下げになる（40歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）

### 家族がいたため（9件）

- ・母が家にいたため（20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・兄夫婦と仕事の為、臨機応変にしていたから（30歳代・女性・自営業の家族従事者）
- ・仕事に復帰できる環境にあった。祖父母の協力（30歳代・女性・被雇用者）
- ・妻が利用したから（30歳代・男性・被雇用者）
- ・家族の協力があつたから（30歳代・男性・被雇用者）
- ・妻が家にいたから（30歳代・男性・被雇用者）
- ・妻が制度を利用しているため（30歳代・男性・被雇用者）
- ・男性は、母乳を子にやることは難しい。幸い私の妻は育休が取得できる仕事をしていることもあり、より効率がいいと思われるため。（30歳代・男性・被雇用者）
- ・制度を利用する必要がないから…子守りしてくれる家族がいた（50歳代以上・女性・家事専業）

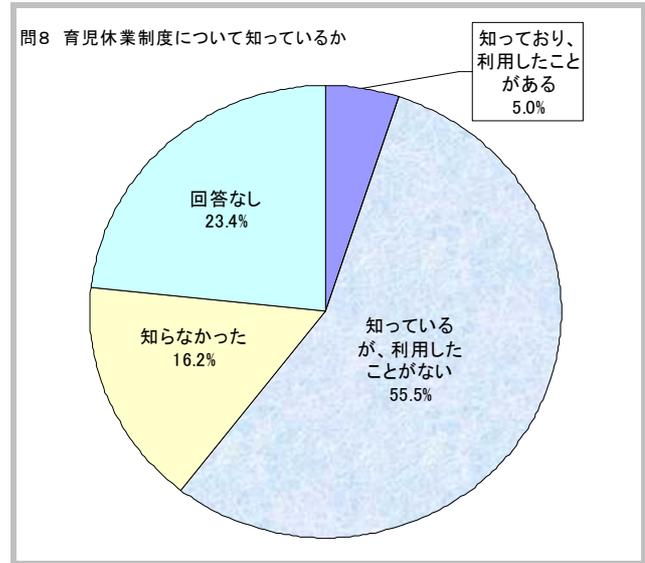
### その他（9件）

- ・自営業なのであまり関係ない。（20歳代以下・女性・自営業の家族従事者）
- ・あるのは知っているけど、どういう内容（有休とかみたいなのか？）が知らないまま、その時期を過ぎた。その制度があるのを会社の誰に言ったらいいのかもわからない。（20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・くわしく知らないの（20歳代以下・女性・家事専業）
- ・夫が制度を利用する方が家計への負担が大きいため（収入が減る）（30歳代・女性・被雇用者）
- ・3歳くらいまでは家にいて、しっかりと子育てをしたかったから（30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・利用するための制度がその時までなかったから（30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員）
- ・自営業だから（30歳代・女性・自営業の家族従事者）
- ・自営なので産後でも全く休めなかった。休むと収入もないので…（40歳代・女性・自営業主）
- ・自営業だから（40歳代・男性・自営業の家族従事者）

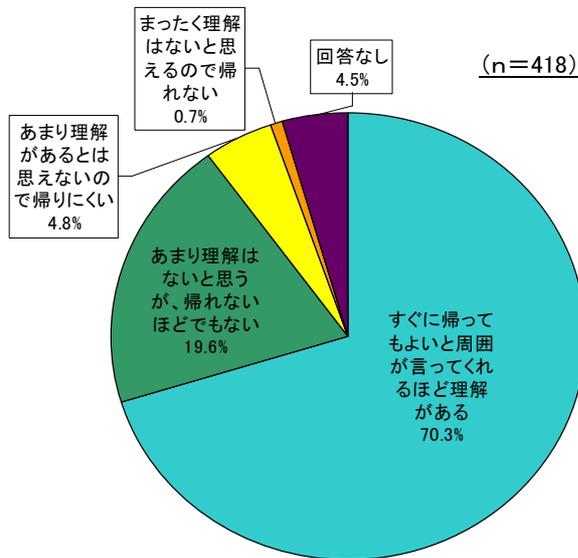
<参考>平成 18 年 3 月実施アンケート結果との比較 (N=1,126)

大きく増加しているものは「知っており、利用したことがある」、大きく減少したものは「知らなかった」である。

アンケートの対象年齢が 20 代から 90 代まで幅広かったことも影響していると思われる。



問9 (現在仕事をされている方に)あなたはお子さんや配偶者の病気など、急な事態が発生し職場から帰らなければならなくなった場合、職場の理解はどのようなだと思いますか。



急に帰らなければならなくなったときの職場の理解については、「すぐに帰ってもよいと周囲が言ってくれるほど理解がある」が約 7 割であった。

一方、「あまり理解があるとは思えないので帰りにくい」「まったく理解はないと思えるので帰れない」という職場もある。

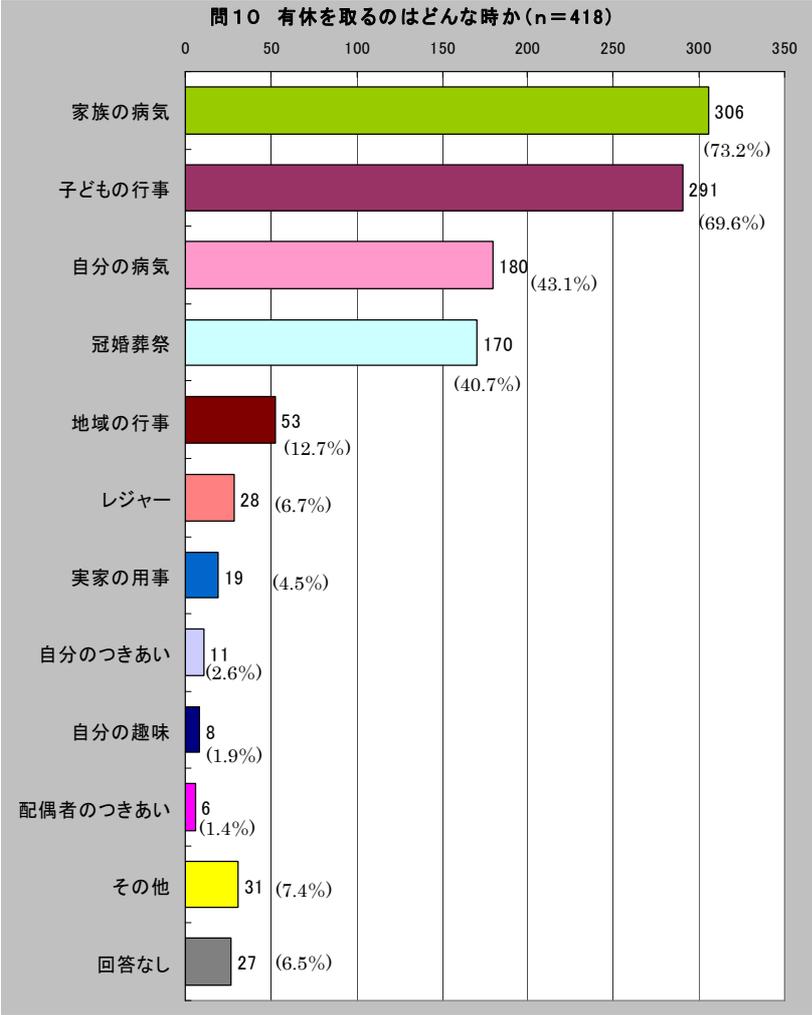
職業別では (下表)、自営業主で「すぐに帰ってもよいと周囲が言ってくれるほど理解がある」の割合がやや少ない。

その他の意見…

・役員以外には理解がある、その時の状況によってはしづられる。

|                            | 自営業主      | 自営業の家族従事者  | 被雇用者        | 被雇用者のうち非正社員 | その他       |
|----------------------------|-----------|------------|-------------|-------------|-----------|
| すぐに帰ってもよいと周囲が言ってくれるほど理解がある | 8 (50.0%) | 22 (71.0%) | 138 (71.5%) | 126 (72.8%) | 0         |
| あまり理解はないと思うが、帰れないほどでもない    | 4 (25.0%) | 3 (9.7%)   | 38 (19.7%)  | 34 (19.7%)  | 3 (60.0%) |
| あまり理解があるとは思えないので帰りにくい      | 0         | 0          | 12 (6.2%)   | 8 (4.6%)    | 0         |
| まったく理解はないと思えるので帰れない        | 0         | 0          | 2 (1.0%)    | 0           | 1 (20.0%) |
| 回答なし                       | 4 (25.0%) | 6 (19.4%)  | 3 (1.6%)    | 5 (2.9%)    | 1 (20.0%) |

問 10 あなたが有休をとるときはどんなときですか。(3つまで)

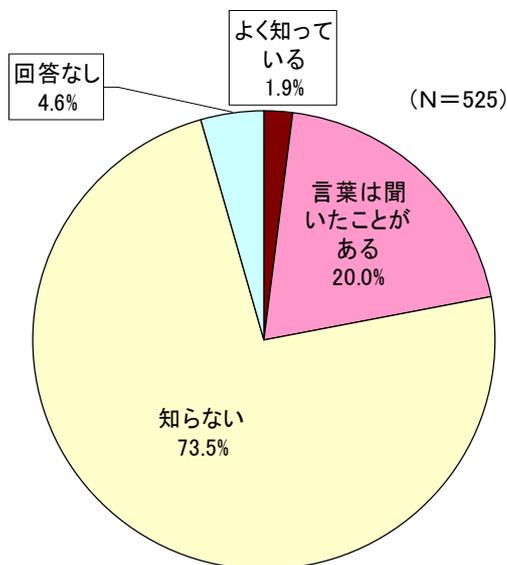


「家族の病気」「子どもの行事」「自分の病気」「冠婚葬祭」の順に多い。  
レジャーや趣味など、自分のことで休むことは少ないようだ。  
その他回答では、「有休がない」との意見が 17 件 (3.2%) あった。

その他意見…  
有休はない(15)、有休は取れない、使わせてもらえない(3)、有休はないに等しい(1)、  
社員旅行のときに 1 日有休を使っているように会社がしており、有休は使えない(1)、取った事がない(1)、  
疲労がたまったとき(1)、休みが必要なとき(1)、自営業のため、有休という形はない(1)、大学院への通学(1)、  
定期的にとる(1)、パートのため、行事のときは始めから休みをとる(1)、  
市役所など、土日していないところへ行く時(1)、労働組合の用務(1)



問 11 「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)この言葉をご存知ですか。



「知らない」が7割以上と、認知されているとはいいがたい状況である。

言葉を見れば、意味合いはわかかってもらえ、問 11-1 の自由意見はたくさんいただきました。

なかでも、職場の理解を必要としている意見が多くなった。

問 11-1 仕事と家庭のバランスのとれる働き方について、ご意見を自由に記入ください。

社会制度の拡充や職場の理解が必要(44件)

- ・会社は仕事をさせすぎない(残業代の出ない残業は×) (20歳代以下・女性・家事専業)
- ・3歳未満もしくは、保育所の子どもがいる家庭の親(妻)は、夜勤免除の制度があればいい。育休ばかり長くても、今度は金銭面で困る。(20歳代以下・女性・被雇用者)
- ・職場が理解してくれること (20歳代以下・女性・被雇用者)
- ・もっと会社にも色々理解してもらえそうな雰囲気や、制度を作ってほしい (20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・父は仕事で忙しい場合は母がなるべく子どもが帰る頃には帰れる位の・・・8:00～16:30 などと少し配慮ができてくれる社会がほしい。(20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・急なことが仕事中に起きても早い時間に退社できやすくしてくれる(こころやすい)会社が多くなってもらいたい (30歳代・女性・家事専業)
- ・残業が少ないこと。妊娠、出産、育児に対して、お互いに理解のある職場。(30歳代・女性・家事専業)
- ・子どもが病気の時、仕事場の理解がないと大変困る (30歳代・女性・家事専業)
- ・子どもの生活リズムに合うように仕事時間を決めて働くことができればよい (30歳代・女性・家事専業)
- ・ちゃんと時間内に仕事が終わらず、疲れて帰宅して、自分の中でゆとりがなく、毎日追い回されている。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・遠距離通勤をせざるを得ない環境をつくらない。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・残業をなくして欲しい。仕事量のわりには、給料が少ない (30歳代・女性・被雇用者)
- ・仕事と家庭のバランスが取れる働き方ではなく、子どもを持つ親が働きやすい職場を作ってほしい。上司が理解してほしい。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・仕事をする以上、いろいろな責任が生じるのは当然であるが、家族との時間がなくなるほど、仕事をさせるのはどうかと思う。時間外であっても、残業手当もだせない所もあるので、本当にどうかして欲しいと思っている。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・子どもがいる場合はやはり職場の理解がある事が大きいと思います。また、家庭でも配偶者の理解も必要だと思います。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・子どもが小さい時は病気にかかりやすいため、そんな時すぐに帰れる状況や、夜勤は免除してくれる状況を職場で作ってほしい。(30歳代・女性・被雇用者)

- ・子どもが小学生の間くらいまでは、夕方早めに帰られるなど自由に働き方が選べたり、周囲にそういう理解があるとありがたい。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・子どもが特に小さい時には子どもに配慮できるような職場の理解がほしい。自分達もそうしてきたから当たり前と思わずに、協力してほしい。そういうことが言えないのが現状だから、制度とかできたら随時とりあげて周囲に分かってもらいたい。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・子育てをしている年齢層が実際に残業を多く抱えていると思う。子育て支援も大切だが、子育て中の親が一定の時間に家庭に帰れるような社会になってほしいと思う。それが子どもの将来にとって、とても大切だと思うから。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・人員削減をしなければ、家庭の事がもっとできると思います (30歳代・女性・被雇用者)
- ・担当の仕事を一人で抱えなくてもよいようにする (30歳代・女性・被雇用者)
- ・定時には、すぐ帰れること (30歳代・女性・被雇用者)
- ・定時帰宅ができること。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・年間有休の完全取得 (30歳代・女性・被雇用者)
- ・毎週、週休2日制ならいいと思う (30歳代・女性・被雇用者)
- ・労働時間(勤務時間)以外は仕事をしないという、家庭に帰れるのが当たり前という社会になること(30歳代・女性・被雇用者)
- ・労働時間短縮 (30歳代・女性・被雇用者)
- ・なるべく、残業をしなくて済むように。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・急病など子どもの急な事態でも休めたり、夕方早めに帰れたり理解があれば、心の余裕もできると思う。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・決められた時間に仕事が終わり返れる (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・子どもの学校や保育所の時間にあわせて仕事のシフトを決められる職場 (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・職場の環境がよければ、バランスは取りやすいと思う。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・男性の勤めている職場環境が重要。長時間職場にいる者が会社を大切に思っている…というような雰囲気だと、家事育児を協力できないと思います。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・残業など長時間労働をしない・休日が思うように取れる職場の環境づくり・一人のしかなできない仕事をできるだけ作らない(他の人がある程度代わりができるよう、平日頃から情報の交換、仕事の共有をしておく)と休みやすい・ワークシェアリングを行う(一部の人が多く仕事をするのではなく、仕事を多くの人に分け与える) (30歳代・男性・被雇用者)
- ・8時間できっちりと仕事が終われない。仕事と家庭のバランスはとれると思うが。(30歳代・男性・被雇用者)
- ・残業のない職場づくり (30歳代・男性・被雇用者)
- ・職場が週休2日をとれるよう勤務シフトや雇用について真剣に取り組んでほしい (30歳代・男性・被雇用者)
- ・定刻には帰れるようにしてほしい(特に公務員) (40歳代・女性・家事専業)
- ・有休をなんの気兼ねもなく使えるようにすること。会社側は休み(有休を使うこと)は悪だと思っている上司ばかりだ!! (40歳代・女性・家事専業)
- ・家から近い所、また時間に融通がきく事 (40歳代・女性・被雇用者)
- ・現在、仕事と家庭といえば仕事に重点をおきざるをえない。家庭をおろそかにしたくないが、ギリギリの人数で働いている為有休も取れない。こんな状況では働いていても収入を得るだけになって自分の向上心等持てない。こういう雇用形態を平気でさせる所も所だと思う。子どもが小さいと働く事をやめざるをえない。(40歳代・女性・被雇用者)
- ・時間外労働はほどほどに。週1~2回ならよくて、あまり帰宅がおそいと家の者も迷惑だし、本人の体調不良に。(40歳代・女性・被雇用者)
- ・職場の勤務制度の充実制 (40歳代・女性・被雇用者)
- ・勤務形態など海外の柔軟な例をどんどん情報提供してほしい。(40歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)

### 夫婦・家族の協力( 16件)

- ・家族や周囲の協力、気軽に相談できる場所があればいいと思う。(20歳代以下・女性・自営業の家族従事者)
- ・理解があり、その上で分担し協力し合えること! (20歳代以下・女性・被雇用者)
- ・家族の協力と「自分が、家事や子育てを全部しないといけない」という責任感を少しゆるめてみる (20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・家族の理解なくして良いバランスは取れない。(20歳代以下・男性・被雇用者)

- ・女性が仕事をもち、自立した給料が得られる事が大事。それ以上に妻が残業等で遅くなっても、夫の協力が必要不可欠。男性の家事負担は大事な事です。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・両方平等にというのはかなり難しい。夫婦お互いの思いやりが必要。(30歳代・女性・家事専業)
- ・家庭の理解と協力(30歳代・女性・被雇用者)
- ・夫にしても妻にしても家族全員が協力しあって頼みごとが互いにしやすい関係であることが大切だと思う。子どもの行事にしてもどちらかが参加するものと決め付けずに夫婦が交互に休みを取るとかすればどちらかに負担が偏ることがなくなるのでは。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・夫の家事参加(30歳代・女性・被雇用者)
- ・夫婦で協力し合う。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・家族の協力が重要だと思う(30歳代・女性・被雇用者)
- ・家族と相談し、無理のない仕事、家庭とのバランスを考える。ストレスや病気にならない事を気をつける(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・夫の協力と理解(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・基本的に夫婦、家庭でよいコミュニケーションが取れ、責任を持って仕事をしていけば、家族、職場内ともに、ある程度の無理は効くと思います。(30歳代・男性・自営業の家族従事者)
- ・家族の協力が一番だと思います(30歳代・男性・被雇用者)
- ・妻の仕事が遅くなるときは、夫が育児、家事をする(40歳代・女性・被雇用者)

### 地域の理解や協力(5件)

- ・子育て女性が安心して働くには、周囲の協力が絶対的に必要。しかし、現代社会は、祖父母も仕事を持っている家が多く協力を求めにくい。子どもが元気な時は保育所でなんとかなるが、病気の際が一番困り、安心して働けないし長期になると職場の理解を得るのも難しい。病時保育や、夫の職場の協力があればさらに心強いと思う。(30歳代・女性・家事専業)
- ・中高年の考えを変える(特に男性)(30歳代・女性・被雇用者)
- ・制度を整えることも大切ですが、それ以前に社会全体の意識の変革(具体的には、「男は仕事女は家庭」といった古い考えを変えていく)必要があるのではないのでしょうか。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・時間外勤務の減少、定時退社、家族や地域、行政の支えによって働きやすい、子育てしやすい環境ができていると、バランスのよい働き方ができると思います。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・社会全体が子どもを育てていきやすい環境づくりをしていかないと無理だと思います。(30歳代・女性・被雇用者)

### 行政の施策(9件)

- ・仕事の時間がもう少し短くなったり(15:00頃までなど)、もう少し安心して、土日や深夜などにも保育してもらえる所が欲しい。(20歳代以下・女性・被雇用者)
- ・子どもを預ける所が最初にないと、仕事をしていないと保育所は駄目という体制がおかしい。働きたくても子どもがいては面接に行ったりできない。(20歳代以下・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・現在、保育所を利用し、育児に関しては仕事・家庭ともバランスが取れていると思うが、育休中の保育料が負担になるので、保育所に行かせてやれなくなる心配がある。(30歳代・女性・被雇用者)
- ・保育料を安くしてくれれば、もう少し子どもも預けやすい。母子家庭への待遇をよくしてほしい。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・父親が平日子どもと過ごす時間が少ないのは仕方ないが、一緒にすごせる時間を増やせるよう、国や職場で、もっと働きかけがあってよいと思う。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・仕事をしていても、子どもの病気で休むことがあるから、仕事をして収入があっても保育料が高いので意味がない(働いても)病気で休んでも保育料はとられるので…(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・市役所がまず職員の残業などをなくして男性の手本を進めてほしい(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・国に問題があると思う。働いたらきちんと休みもあり、それで生活もしていける(給料面も)国にしてもらいたい。(40歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・家庭に重心をおき、家族に負担のかからない限りで働くことが、バランスのとれる働き方ではないかと考えます。(40歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)

### 自分の考え方や仕事のしかた( 7件)

- ・無理をしないこと (20歳代以下・女性・被雇用者)
- ・男でも女でも残業をしないようにすることが必要だと思います (30歳代・女性・自営業の家族従事者)
- ・時間内に仕事をすませる。家族が協力する(仕事も、家庭も) (30歳代・女性・自営業主)
- ・あまり負担になることは避け、自分のできる範囲です。 (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・本人のやる気、仕事は勤務時間内に終わらせる。メリハリをつける。 (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・家庭中心主義。仕事中心からの価値観の転換。 (30歳代・男性・被雇用者)
- ・自分でバランスをとればよい (40歳代・女性・自営業の家族従事者)

### 金銭面( 5件)

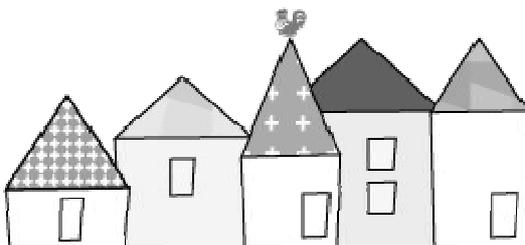
- ・バランスをとるためには、労働時間を短くしないといけなくなるので、収入が減り、生活に困る。 (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・安定した収入、心のゆとり (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・個人の給料が上がる。もしくは、すべての物価が下がる。職場では、仕事の内容に関わらず雇用体制を大幅に増やす。 (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・金銭的に余裕がある (30歳代・女性・被雇用者)
- ・収入面の不安があるのでフルタイムで働いている。職場の理解は充分あるが子育てにはお金がかかる。保育料・延長料金が高い。いくら周辺の理解があっても経済面で困るので仕事中心です。 (40歳代・女性・被雇用者)

### 現実には難しい( 7件)

- ・言っても(書いても)現実にならない。「子育て終わるまで働かず家にいたほうがいい」と田舎ならではの、女の仕事ならではの偏見をなくしていかなければ、いくら働きたくても長く続かない。辞めるようにながされる。 (30歳代・女性・家事専業)
- ・そんな働き方はない (30歳代・女性・被雇用者)
- ・ない (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・仕事と家庭の両立はとても難しいです。でもしょうがない (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・バランスはなかなかとれません。ひたすら、我慢です。 (30歳代・男性・被雇用者)
- ・家庭のために仕事をして、時間が全くないのでバランスだとか言ってもらえない (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・現実はそうでないと思う (40歳代・女性・家事専業)

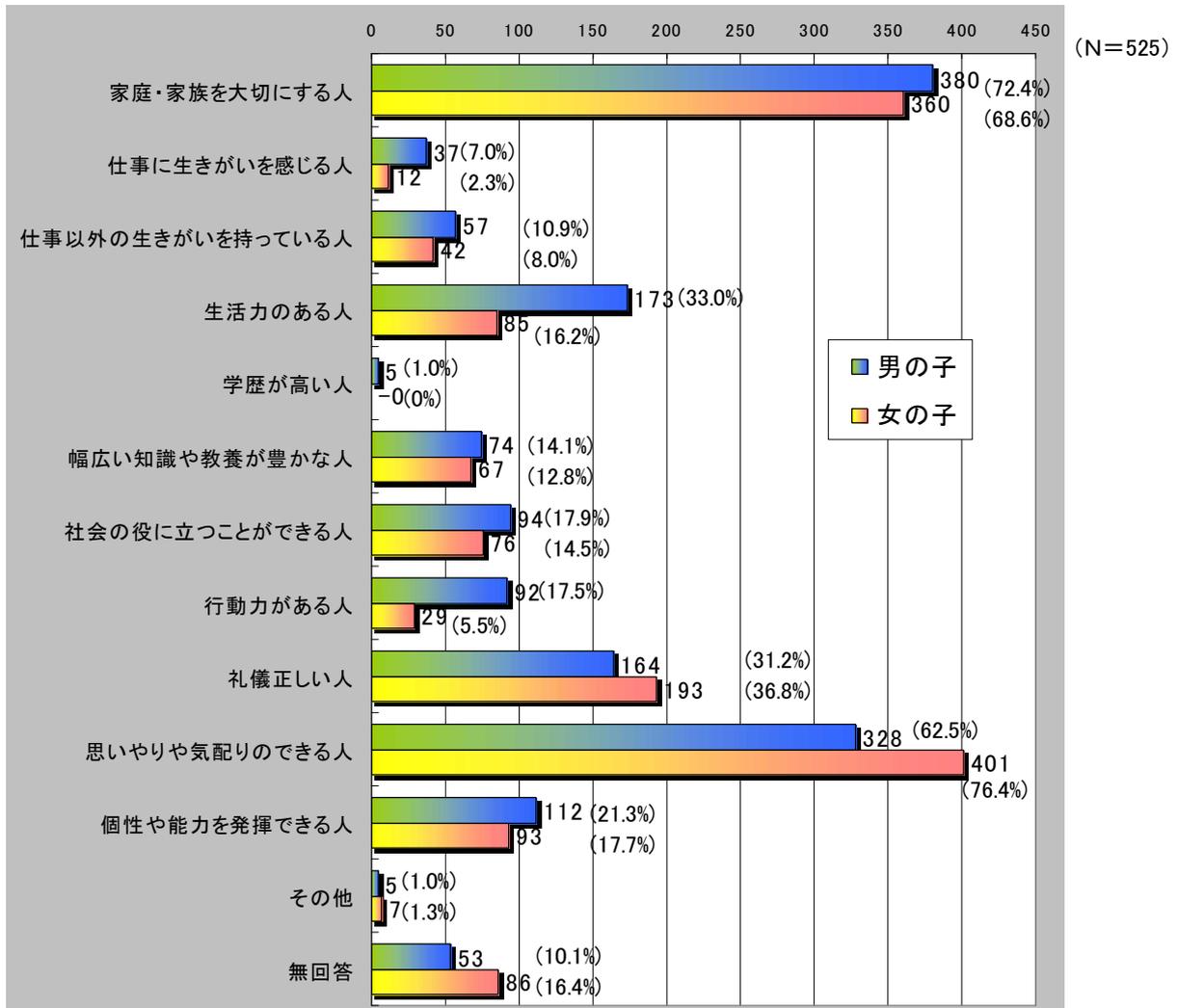
### その他( 3件)

- ・私自身は必ずしも女性が子育てしながら働かなくてはならないとは思っていません。人生の中で仕事(または子育て)に専念する時期があってよいと考えます。人それぞれの考えにあわせて仕事と家庭のバランスをとれるような選択肢があり、選ぶことができる、柔軟に対応する環境をつくるのが大切だと思います。 (30歳代・女性・被雇用者)
- ・働き方に関係なく、できるかぎりのことをすればいいと思う。 (30歳代・男性・自営業主)
- ・女性も仕事を持つのはよいことだと思うが、仕事のストレスなどで子どもにあたったり、疲れて相手をしてやれない、家事をする気力が残っていないなど弊害も出てくると思う。 (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)



## 子育てについて

問 12★ あなたは、子どもにどのような人物に育ってほしいと思いますか(3つまで)



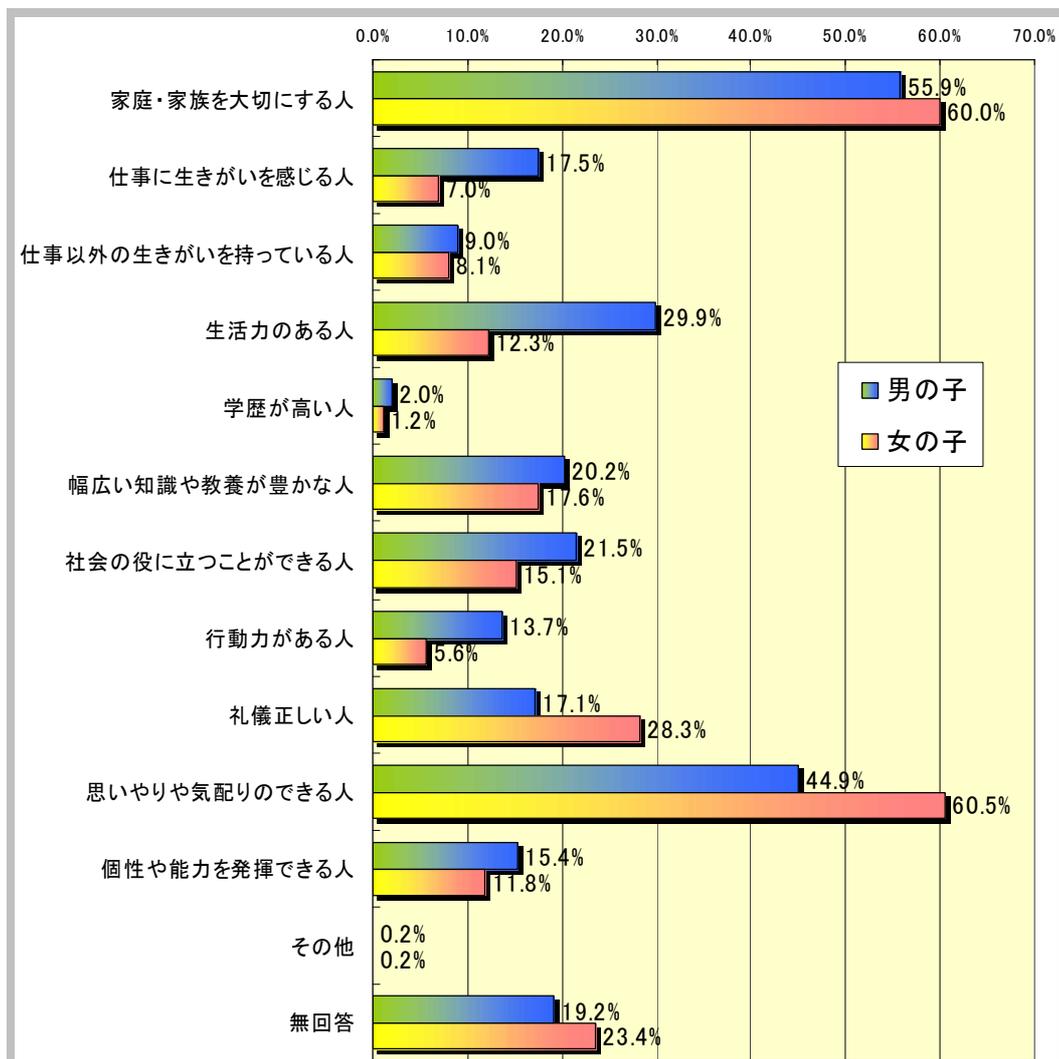
### その他意見...

- ・自分の子どもは女の子ですが、男だから女だからということを考えたことはない。国籍や性別にとらわれない人になってほしいとの思いで名前もつけた(男でも女でもどこの国でも通用するよう)
- ・子どもには、感謝の本当の意味をわかる人になってほしい

男女とも、「家庭・家族を大切にする人」「思いやりや気配りのできる人」が多い。

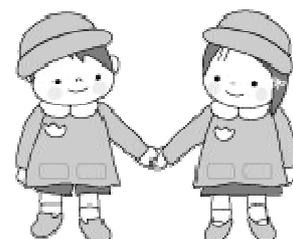
男の子はついで「生活力のある人」「礼儀正しい人」と続き、女の子は「礼儀正しい人」「個性や能力を発揮できる人」が多くなっている。男女で大きな差はみられないが、「思いやりや気配りのできる人」「生活力のある人」で差がみられる。

<参考>平成 18 年 3 月実施アンケート結果との比較 (N=1,126)

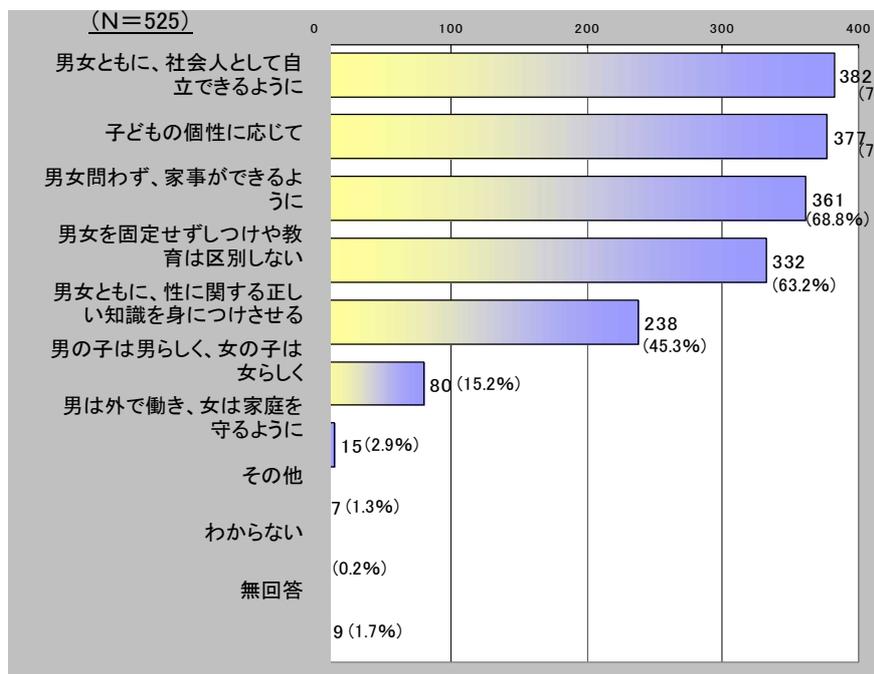


平成 18 年の調査と比較して、男の子で大きく増えたものは「思いやりや気配りのできる人」「家庭・家族を大切にする人」「礼儀正しい人」、女の子で大きく増えたものは「思いやりや気配りのできる人」である。

また、大きく減ったものは男の子の「仕事に生きがいを感じる人」である。



問 13★ あなたは、子育てについてどのように考えますか。(いくつでも)

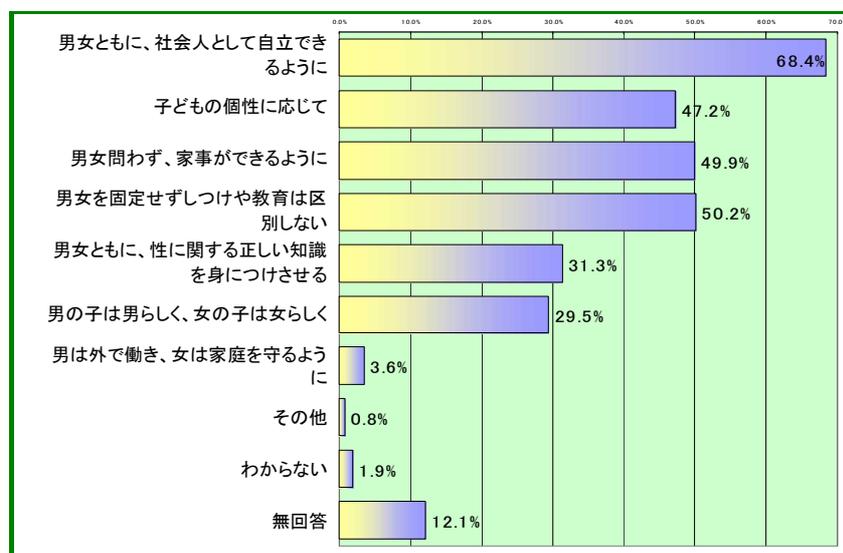


「男女ともに、社会人として自立できるように」「子どもの個性に応じて」の順で多くなった。  
男女を固定しない育て方への支持が高い一方、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」「男は外で働き、女は家庭を守るように」も少数ある。

その他意見・・・

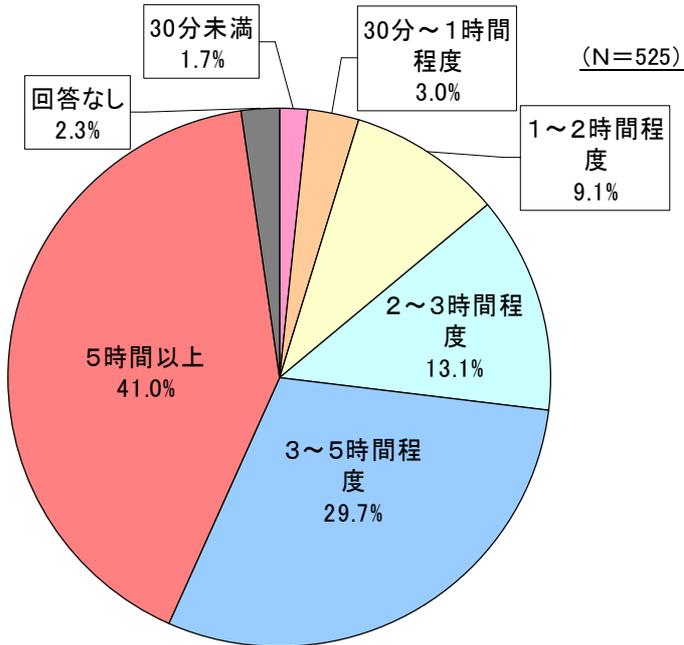
- ・挨拶ができる人 (20歳代以下・女性)
- ・思いやりのある人。(20歳代以下・女性)
- ・最近少年少女の犯罪が増えているので優しく悪い事をしない子に育てたい (20歳代以下・女性)
- ・大自然に囲まれているところで成長させてやる (20歳代以下・女性)
- ・人間としての当たり前のルール(命との大切さや社会のルール)を大切にできるように (30歳代・女性)
- ・健康第一 (30歳代・女性)
- ・頭の学力だけに偏らず、衣食住等生きる力を家庭の中で身につける (30歳代・男性)

<参考>平成 18 年 3 月実施アンケート結果との比較(N=1,126)



比較すると、大きく増えたものは「子どもの個性に応じて」「男女問わず、家事ができるように」「男女ともに、性に関する正しい知識を身につけさせる」であり、大きく減ったものは「男の子は男らしく、女の子は女らしく」である。

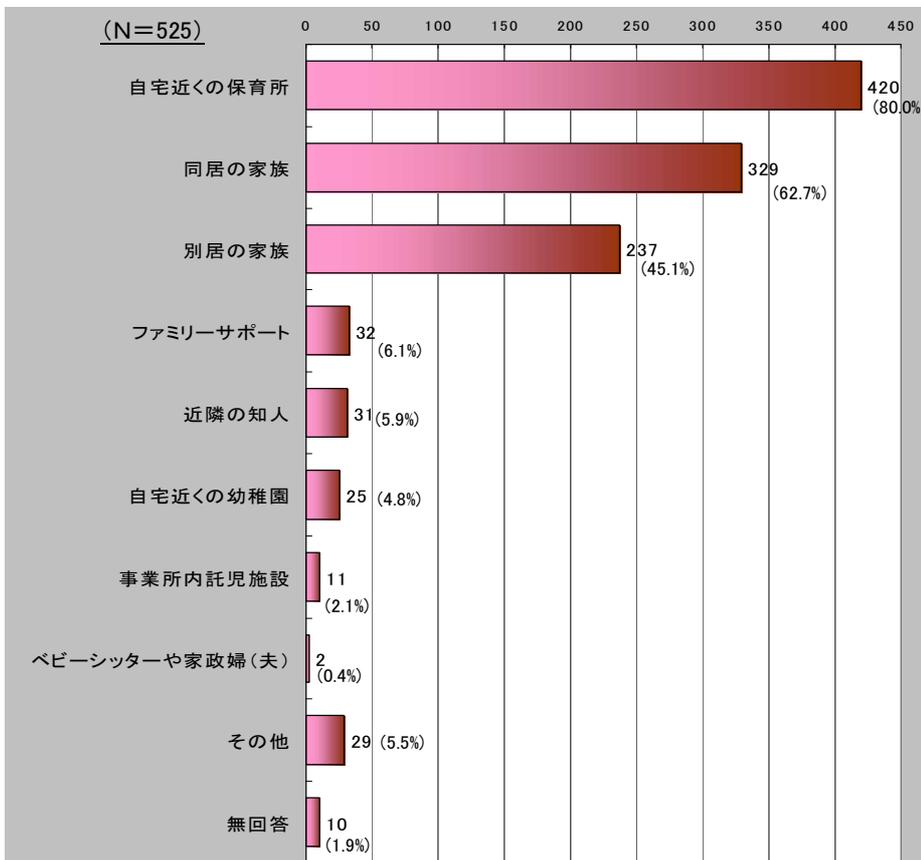
問 14 あなたは平日、育児に関わる時間は平均して1日何時間くらいですか。



「5時間以上」が約4割、次いで「3~5時間程度」「2~3時間程度」と続く。

「30分未満」「30分~1時間程度」の短い時間しか育児に関わっていないという層も少数ある。

問 15 あなたが育児のために協力をお願いしている人、利用している施設・サービス等は(いくつでも)

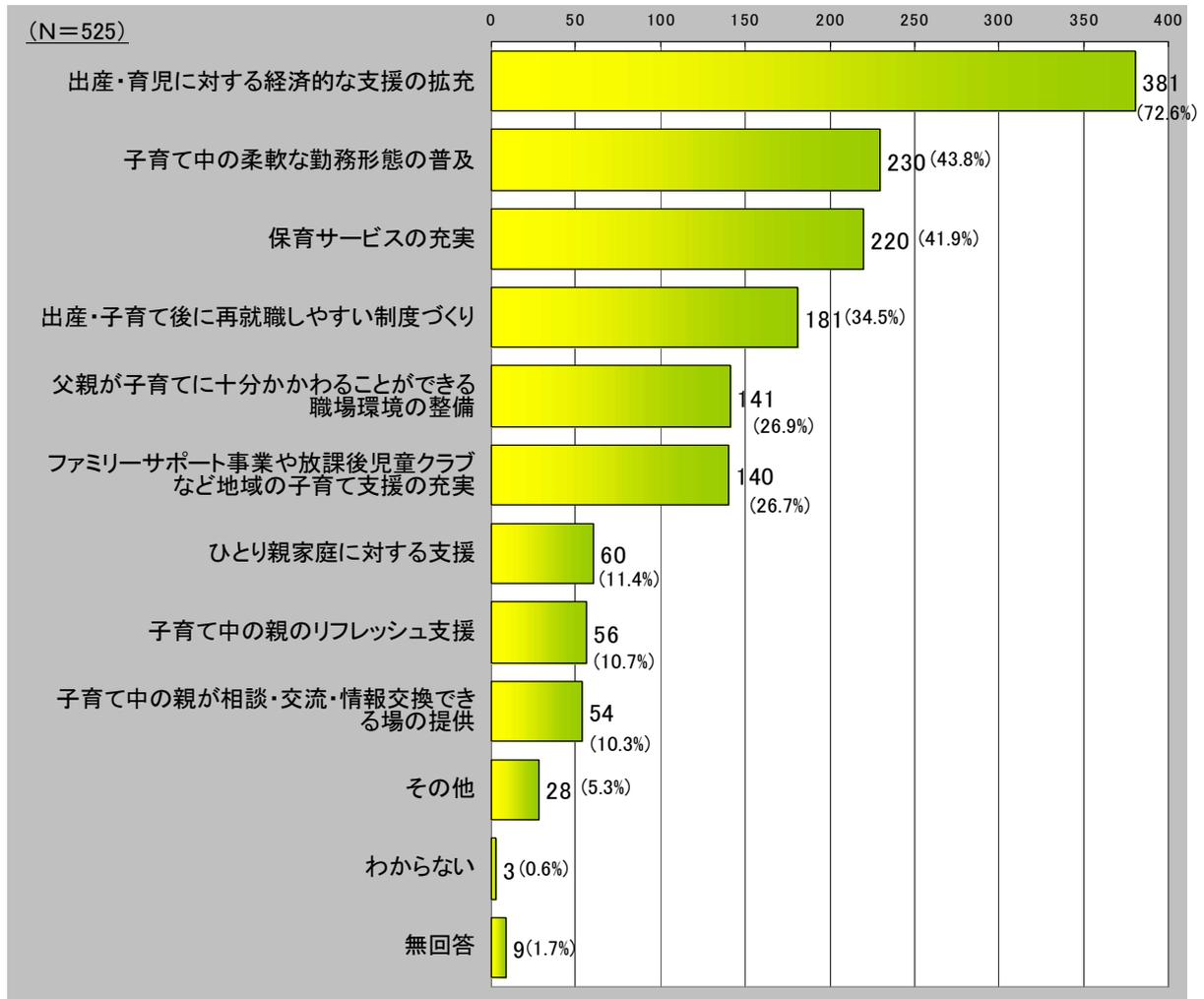


「自宅近くの保育所」「同居の家族」「別居の家族」の順で多く、公的機関や家族が多い。

その他回答...

放課後児童クラブ(8)、実家(7)、親戚(5)、遠い保育所(2)、町内唯一の保育所(1)、職場近くの保育所(1)、託児所(1)、ひだまり広場(1)、しあわせ館(2)、友人(1)

問 16★ 安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思いますか(3つまで)



「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が一番多く、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」「保育サービスの充実」と続く。

その他の意見では、医療に関する不安・要望が多い。

その他意見…

医療(21件)

- ・近くですぐ行ける産婦人科病院・小児科病院(24時間体制) (30歳代・女性)
- ・産婦人科、小児科等医療施設の充実 (30歳代・女性)
- ・産婦人科や小児科の病院を近くに (30歳代・女性)
- ・病院 (30歳代・女性)
- ・病気のとくに見てくれるところ (30歳代・女性)
- ・病気になった時でも預かって子どもを見てくれるサービス (30歳代・女性)
- ・産婦人科、小児科医の定着 (30歳代・女性)
- ・出産できる病院や小児科が近くにあること。遠方だったり、冬などは雪や凍結等で非常に危険・不安である。(30歳代・女性)
- ・病院の充実 (30歳代・女性)
- ・産婦人科 (30歳代・女性)
- ・病中、病後の子どもを預かってくれる所 (30歳代・女性)

- ・産婦人科医、小児科の充実（30歳代・女性）
- ・産む環境の整備→医師不足の解消（30歳代・女性）
- ・産める場所（30歳代・女性）
- ・地域に産科が必要（30歳代・男性）
- ・医療体制の充実（30歳代・男性）
- ・産科医、小児科医の充実（30歳代・男性）
- ・出産できる環境 産婦人科医の確保（30歳代・男性）
- ・保育費一部負担など。医療！小児科・産科・耳鼻科・小児科。とにかく医療のことが不安不満でいっぱいです！（40歳代・女性）
- ・産科や小児科の医療の充実、子どもをとりまく環境の整備（40歳代・女性）
- ・地元には産科がないのでは、安心して産み育てられない（40歳代・女性）

### 市の施策（3件）

- ・ファミサポ、保育所等の負担金の軽減（30歳代・女性）
- ・住宅事情、保育料の軽減（30歳代・女性）
- ・提供の場があっても、常勤だと利用する機会が減少するので、共働き夫婦も対象とした利用しやすい交流内容や場を拡充してほしい。（30歳代・女性）

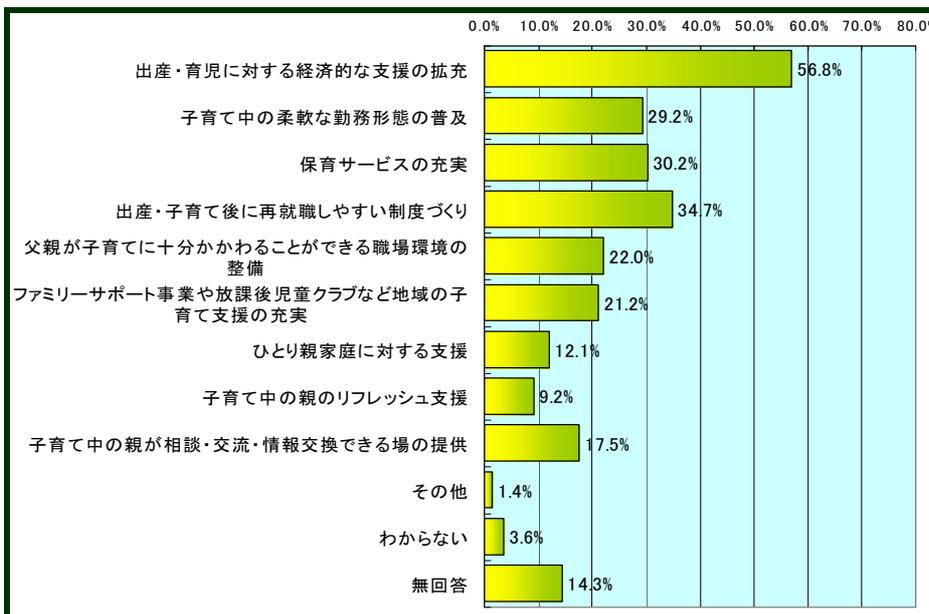
### 周りの環境（4件）

- ・地域との連携（30歳代・女性）
- ・個々の家庭に対する周囲の柔軟な考え方や対応（30歳代・女性）
- ・別居していても、いつでも助けてくれる親の存在（30歳代・女性）
- ・祖父母の協力（30歳代・男性）

### その他（2件）

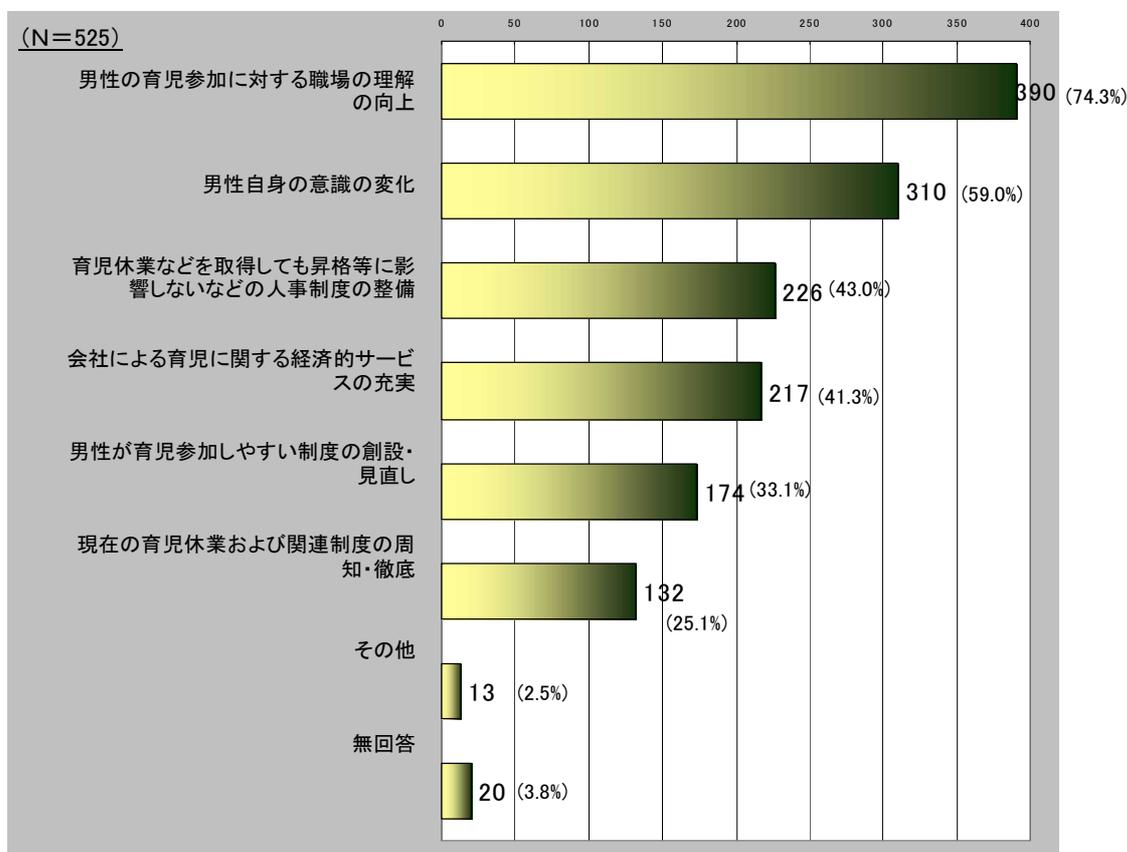
- ・“出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり”という項目にも関係するが、出産する年齢が高くなってきている現在、出産後の再就職において年齢の事で難しくなるケースがあるのでは？（30歳代・女性）
- ・（子どもを産み育てるために必要なものは、3つでは少ないと思います。特に、高齢者の方々は、同居をしていて、夫に家事をさせていると機嫌が悪いので勉強して欲しいなどと思う。（30歳代・女性）

### <参考>平成18年3月実施アンケート結果との比較(N=1,126)



比較すると、増えたものは「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」「保育サービスの充実」である。

問 17 男性の育児参加しやすい環境を整備するためには何が必要であると思いますか  
(いくつでも)



「男性の育児参加に対する職場の理解の向上」「男性自身の意識の変化」の順で多くなった。次いで「育児休業などを取得しても昇格等に影響しないなどの人事制度の整備」「会社による育児に関する経済的サービスの充実」と、会社の制度を整備することが必要であるという意見が多くなった。

その他意見…

- ・男性のみの育児サークル (20歳代以下・女性・家事専業)
- ・男性が収入があれば、仕事を辞められ、子育てに専念できる (30歳代・女性・その他)
- ・あまり変わらないと思う (30歳代・女性・家事専業)
- ・子どもの育て方(問13の1~4のようにする) (30歳代・女性・被雇用者)
- ・育休制度も理想的ではあるが、もっと現実的な制度を考え、幅広い職種の父親達が子どもとの時間を過ごせるように整備してほしい。(30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・本人のやる気 (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・男性トイレにオムツ交換シートの徹底 (30歳代・女性・被雇用者のうち非正社員)
- ・男女間の収入格差の縮小 (30歳代・男性・自営業の家族従事者)
- ・国(公務員)から率先して男性が育児に携わっている態度を見せること (30歳代・男性・被雇用者)
- ・仕事に拘束される時間の短縮。余裕がないときびしい。今時、共働きでどちらも5時に退社できる仕事なんてほとんどないのではないかな。だから結局片方がパートなどをし、そちらに家事育児等がかたよる。(30歳代・男性・被雇用者)

- ・小さい子どもがいる家庭の男性に対する地域の住民の考慮(地域の勤めの軽減等) (30歳代・男性・被雇用者)
- ・定刻には帰れるようにしてほしい。サービス残業の廃止 (40歳代・女性・家事専業)
- ・放課後児童クラブが現在小学3年生までとっていますが、働く親が増える中、なかなか PM6:00 に迎えに行くことが難しいため、PM6:30 に延長していただければ、「男性の育児参加」として父親が迎えに行くことができます。また、子どもが犯罪に巻き込まれる事件が多くなっている中、テレビや都会だけのものだけでなく、庄原市でも起こるかもしれないという危機感をもってもらいたい。そのためにも、小学6年生までに変更改善していただきたい。以上の事を強く訴え、また庄原市として見直していただきたいです。(30歳代・女性・被雇用者)

## 問 18 庄原市の男女共同参画施策についての自由意見

### 男女共同参画の講座・事業について(21件)

- ・子育て1人目、2人目…に必要な事、知識、考え方を分かりやすく話してもらえる経験者の講座があれば行ってみたい。仕事と家庭、子育て。核家族でも子育てできる環境を期待します。(20歳代以下・女性・庄原地域・自営業の家族従事者・配偶者あり)
- ・男女共同参画についての講演等行われているが、我が家では父親自身が男女参画にあまり関心がないため行ったことがない(そういう人にこそ聞いて欲しい!!のだが…)講演も必要だが、家族で参加できるようなイベント!?(ex:楽しみながら、子育てに関する制度やサービス、施設、ファミリーサポート事業等を学べる)があれば、気軽に足を運べるし、男女参画や子育てについて夫婦で考えられるきっかけづくりにもなるのでは…と思う。(20歳代以下・女性・東城地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・子どもに起こりやすい症状(発熱等)、対応の仕方など (20歳代以下・女性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・男親の子育てへの参加は今後、必要だと思うが、“お母さん”の教育も必要なのではないだろうか。最近、いろんな“お母さん”を見ると、自分の子どもをまるで犬や猫のような“ペット”に接するような事をしている方が多く目につく。(20歳代以下・男性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・今までどおりでいいと思います。(30歳代・女性・庄原地域・その他・配偶者あり)
- ・会社(大小にかかわらず)社長さんにしっかり理解してもらえるような講座や市や国のトップにもちゃんと低所得者の現状を知ってもらうようにしたらどうですか?月々いっぱいな家計では難しい。産んでもその子の将来にまで学校に行かせたりサポートしてやれなかったりと本当に現実にはきびしいです (30歳代・女性・庄原地域・家事専業・配偶者あり)
- ・父親が参加しやすい行事があれば良い。(30歳代・女性・西城地域・家事専業・配偶者あり)
- ・五日市剛さんの講演会をよろしく願います。・中高生が乳幼児と触れ合える機会を多くつくる。(30歳代・女性・口和地域・家事専業・配偶者あり)
- ・年齢の高い方向けの内容である気がするのですが、なかなか若い人が参加できないのではないかと感じています(チラシを見る限りですが)。(30歳代・女性・西城地域・家事専業・配偶者あり)
- ・親子(家族全員)で聞ける子育て講座(・子どもの気持ち・父の気持ち・母の気持ち)を1回の講座で全員が聞ける講座(30歳代・女性・東城地域・自営業主・配偶者あり)
- ・働く親は常に職場・家庭でストレスを感じているがそれを上手くコントロールできない人もいると思うので心の問題をメインとした内容の講座などに参加してみたい。育児中の女性だけでなく中高大学生を持つ親も大変です。広い範囲で支援をしてほしい。(30歳代・女性・庄原地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり)

- ・同じ年頃の子どもを持つ親同士の意見や悩みなどを交換する場・思春期を迎えるための親の講座（30歳代・女性・西城地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり）
- ・大人よりもむしろ子ども、中学生や高校生に対して、自分の親がどれだけ大事に自分を育ててくれたかということを自覚させ、親力というか親学を習得させること。虐待も少なくなるのではないだろうか。加えて、出産率も伸びればラッキーですね。大人は時間がないとかで無理です。時間があり余っている子どもたちを教育すべきです。（30歳代・女性・庄原地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり）
- ・男性の育児参加を、妻である私がするとうるさがられるので、父親を対象とした講演会（ほぼ強制的参加風に）をすとか、このアンケートも、父親対象にするとか、仕事と家事・育児の大変さを、男性から話して聞かせるような機会があるとうれしいです。（30歳代・女性・高野地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり）
- ・親を中心とした生活ではなく、できるだけ子ども中心の生活をしていくための講座など。親にふりまわされる子どもが多いような気がするため。（30歳代・男性・庄原地域・自営業主・配偶者あり）
- ・経営者・上司の教育・講座。（40歳代・女性・庄原地域・家事専業・配偶者あり）
- ・講演会、映画会、カウンセリングの方法、コミュニケーションの方法 等（40歳代・女性・庄原地域・家事専業・配偶者あり）
- ・子育て世代のお父さんによる料理教室・お父さんと子どもの遊び方講習（赤ちゃん世代～小学校高学年）・夫婦と子どもとそれぞれの交流会（40歳代・女性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・男性の妊婦体験（まず妊婦の大変さを理解させ、子育てを夫婦ともに協力しなければと思わせる体験から）・企業向けに子育て支援の意識や職場環境の改善を・共同参画講座は定期的に（40歳代・女性・東城地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり）
- ・親と同居している家庭は、女性が外の仕事もして、家の中の仕事をして当たり前、男性（夫）に家事・育児を分担して欲しいが、それを頼めない、親への気がねがあります。なので、おじいちゃん、おばあちゃんの意識改革をするようなセミナーがあれば、お願いしたいです。（40歳代・女性・高野地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり）
- ・男性参加型の料理教室（保育あり）や、一緒に参加したり運動したりする行事などがあれば（参加しやすい様日曜日に）いいなと思います。父親が子どもに関わりやすい環境が（半ば強制的な父親参観など）あるといいです。子育てに参加するきっかけづくりをする場。（40歳代・女性・東城地域・無職・配偶者あり）

## 男女共同参画施策全般について（8件）

- ・「男女共同参画施策」という言葉自体が難しくとっつきにくい。もっとわかりやすいスローガンみたいなものを挙げた方がよいと思う。難しい言葉を並べたても興味はわかないし聞こうという気にならない。お役所的な発想だと思う。育児参加などはいくら勉強会を行っても、経済的、人的（職場）支援がないと無理。（30歳代・女性・庄原地域・家事専業・配偶者あり）
- ・男女共同参画や子育て、教育全てにおいて、庄原市が地域で子どもを育てていこうという姿勢を感じません。現状で期待している事ありません。お金がないなりに、職員の方々を圧迫する事なく、よりよい市となっていく事を私達の子どもの為に願っております。異なる意見を自由な雰囲気の中で議論できる環境が整わない限り、男女共同参画施策をされても何も変わらないのではないのでしょうか。（30歳代・女性・口和地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・「男女共同参画」という言葉を聞いても、何を狙っているのか、よくわからないという声が大多数だろう。何故、この取り組みが必要なのか、わかりやすく共感の得られる啓発が必要だと思う。行政側が理解できても、市民の理解につながるものでなければ意味がないと思います。いわゆる”行政用語”は使わないようにすべきだと思います。（30歳代・男性・西城地域・被雇用者・配偶者あり）

- ・講座等、色々計画されるのは良いことだと思います。国や県との板ばさみになられることもあると思いますが、市の職員の方は住民が一番近いのですから、現場の生の声、思いを伝えていただきたいと思います。大変なことと思いますが、よろしくお願いします。（30歳代・女性・口和地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・わが家は夫が家事に協力的なので、私も残業ができる。夫婦が2人とも残業が続く職場だと、少子化は進むと思う。個人に対するアンケートよりも、職場へのアンケートや男女共同参画の指導をして欲しい。個人がどう思っている、職場が変わらなければ何も変わらないのではないのでしょうか？（30歳代・女性・東城地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・庄原市内の企業に於いても管理職に占める男性の比率が高いと思う。数字としても女性管理職を半数に近づけるように施策を取ってほしい。女性が外で働けるように男性も定時で帰れるよう仕事配分を考える必要がある。（30歳代・男性・総領地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・家事・育児参加している男性の中で、特に積極的に家事、育児参加をしながら、ワーク・ライフ・バランスをとっている男性を、庄原市内で探し、定期的に広報しようばらへ掲載して、表彰し、その男性に助成金を与えたらどうでしょうか。そうすることで、庄原市内の市民の中に男女共同参画という意識が広まり、男女共同参画社会の推進につながっていくのではないかと思います。理屈ではなく、実際にそういう生き方をしている人、実践している人を手本に見習うことが大切ではないかと思います。（30歳代・男性・口和地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・講座等開いても、子どもを置いて夜間きに行く状況ではない為、聴衆する人も少ないと思う。又、アンケートを取るだけでなく、結果をふまえてどういう働きをしていかないといけないか取り組み等を市民に知らせる必要があると思いますよ。（40歳代・女性・西城地域・被雇用者・配偶者あり）

## 庄原市の子育て施策について（23件）

- ・三次市では土曜も給食があり、平日同様に保育をして下さり、場所によっては PM8:00 頃まで保育して貰えると聞きました。新庁舎やペレットストーブなどは、本当に子どもにとって大切でしょうか？「過疎」の進む県北で『子育てをしやすい庄原市』になってほしいです。『子どもは庄原市の宝』ではないのでしょうか？庄原市の赤字を市民税より取りすぎです！！子どもを沢山産んだ家庭にはもう少し控除を考えて頂きたい。あと医療の件でも、庄原日赤以外は小児科がないので、もう少し考えて頂きたい。（20歳代以下・女性・西城地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり）
- ・放課後児童クラブがなく、仕事をなかなかすることができない。2,3人でもファミリーサポート以外でみてもらうところがあったらいいと思う。料金なども高い。（20歳代以下・女性・庄原地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり）
- ・一人親のケア、及び経済的な事（20歳代以下・男性・東城地域・自営業主・配偶者なし）
- ・講座を行うよりも、まずは庄原市で男性の市役所勤務の方に育児休暇を義務で設けるとか？形にして見せないと変わらないと思う。あと、庄原市では働いていない母親でも保育所に入れているという現状はよくないと思うのですが…。働き口を探す3ヶ月（仮に）と期限を設けたりしないと。何か市の方でななあになってる感があります。条件なしで誰でも入れることは他の市ではありえない。（30歳代・女性・庄原地域・家事専業・配偶者あり）
- ・3歳、1歳の子どもの母親です。私は子育て支援センターひだまり広場（旧田川保育所）に毎週子を連れて遊びに行っています。よその地からとついできて、友だちがいなく孤立して子育てをしていた時、行くようになり、とても良かったです。なので、これからも是非続けてください。あと、庄原で子どもが産めるよう、産婦人科を復活してください。（30歳代・女性・庄原地域・家事専業・配偶者あり）

- ・高野町で現在行っている放課後クラブを、土曜日、夏・冬休みなどでも夕方まであずかってもらえるようになると嬉しく思います。私達の子供達は地域や保育園、小学校など皆に支えて頂きながら夫婦で育てているなあいつも感じています。（30歳代・女性・高野地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・保育園に通っている子どもが病気とかで休まなくてはいけないうちに預かってもらえるサービスがほしいです。例えば看護師さんを配置してもらって医療的なサービスが受けられるとか、病気の為保育園には行けない→自分が休めないなどの時にそういう保育所でもあり医療的な事もしてもらえるサービスは庄原市にはないので、是非そういう病気のある子どもを一時的に預かってもらえる施設ができればすごく嬉しいです。本当にほしいです。よろしくお願いします。（30歳代・女性・西城地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・子育ての講演会等、是非夫婦で行ってみたい。（30歳代・女性・東城地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・子育て、仕事への両立でがんばっている母親に対する「父親としての役割」を知ってもらう必要があると思うので、結婚して家庭をもっている男性にはそのような話を聞いてもらう場を作ってほしい。  
父親が理解してくれないと家庭がうまくいらない気がする。子どもにもいい影響を与えることができないのではと思う。  
（30歳代・女性・西城地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・問 17(男性の育児参加しやすい環境の整備)の内容のような事を、企業相手に講座してほしい（30歳代・女性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・父親の役割とは？父親を対象に！！(参加してくれるかが不安ですが)(親自身が親になりきれないと感じる)（30歳代・女性・東城地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・若い世代は、男女ともに家事や育児を一緒にやっていくというのが当たり前になりつつあると思います。しかしながらまだ昔の考え方を持つ方々から見るとんでもないことであるという考えで、反対に怒られたりすることもあるように思います。  
社会全体で男女共同参画を行っていくには若い世代ばかりでなく、古くからの考え方を持っておられる方もまじえて、これからの社会づくりとして一緒に考えてもらうことが必要であると思います。（30歳代・女性・東城地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・現在、出産した方にお金が出ていますが、それよりも妊婦検診のお金を負担してくれる制度や出産後、再就職しやすくしてくれるとか、育児休暇を男女とも、堂々ととれるとか、子育ての柔軟な勤務形態の普及などに力をいれてほしいです。  
少子高齢化と問題にされるわりには「子どもを産んだら仕事のじゃま」のように再就職は難しいし、なにかおかしいです!!違うところでお金を使ってください。税金を無駄にしないでください。このアンケートをどのように活用されるのか…不思議です。  
（30歳代・女性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・出産祝い金も、出産の際には大変経済的に助かるけれども、保育料をもう少し見直していただけたら、より経済的負担が少なくなるのではないかと。働かなくてはいけませんが、”収入が高ければ、保育料が高額になる”… 母親であっても、社会参加していくことは、大切（30歳代・女性・高野地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・育児中のストレスをわかってくれる人がなかなかいないので、いろいろと話し合いをもつ場所が欲しい。託児所という場所を、公民館に作って欲しい。行きづらい場所でない方がいい。下の子のときには、4才児から、町での検診もなくなってしまい、医療費も高くなり困る。町にもなかなか期待もできない。（30歳代・女性・高野地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・夫の職場では、まだ上司の理解がない。市の公務員で、育児休業制度をとられている方がいるが、この市は取り組んでいますとアピールされているようですが、現状を知っていただきたい。母子家庭の助成金をもう少し考えていただきたい。父子家庭はかなりキツイ。（30歳代・女性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり）
- ・月に数日しか仕事はしていないけど、急に仕事が入り帰れない時など、児童クラブで預かってもらえるようなら助かる事があります(仕事がたまになので児童クラブには入っていません)（30歳代・女性・庄原地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり）

### 施設の充実について( 3件)

- ・子どもが遊べるような所がたくさんあればよいと思います。今のところ、少ないから…。(20歳代以下・女性・口和地域・家事専業・配偶者あり)
- ・休日などに、子どもを連れて行ける場所が少ないです。雨が降ったりすると公園で遊ぶことができません。室内で遊べる所を作って下さい。子育て中の親がリフレッシュできる場所がありません。親子で行ける、休日でも遊べる場所があればいいですね。散歩ルートがあれば…。車が走っていてあぶないし、歩道もガタガタで、赤ちゃんのゆさぶられっ子症候群が心配です。(20歳代以下・女性・庄原地域・家事専業・配偶者あり)
- ・東城町内の小学生の子どもたちが、自分で遊びに行ける公園、施設が必要だと思います(平日、休日に)(30歳代・女性・東城地域・家事専業・配偶者あり)

### 病院の充実について( 3件)

- ・病院の設備をしっかりしてほしい。産婦人科、小児科。  
日中のパートができる職場を増やしてほしい。(20歳代以下・女性・東城地域・自営業主・配偶者あり)
- ・産婦人科をもっと早く再開してほしい。庄原赤十字病院の小児科が、なくなるかもしれないと聞いたが、なくならせないための働きかけをしてほしい。小児科がなくなると、ものすごく不便になります。(20歳代以下・女性・東城地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり)※庄原赤十字病院の小児科がなくなる予定はありません(庄原市註)
- ・病院の充実性(小児科、皮膚科、耳鼻科)(40歳代・女性・東城地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり)

### 周りや家庭の環境について( 18件)

- ・国は、働きながら子育てする親のことを何もわかってないと思う。育休をいくらばしていても、核家族には無意味に近い。近所の人に「お金より、子どもの事だからね」と言われたが、夫の給料だけでは生活できないから働いてるのに…。その辺の制度を充実してもらいたい気がします。(20歳代以下・女性・西城地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・大きな都会では育児もしやすいが田舎ではなかなかそうもできないため、できやすくしてもらいたい。(特に民間の会社は)(30歳代・女性・庄原地域・家事専業・配偶者あり)
- ・講座などがあっても、家族の理解がないと出にくく、参加ができません。(30歳代・女性・庄原地域・家事専業・配偶者あり)
- ・私たち自営業者にはこの制度は全く関係がないと思う。(30歳代・女性・庄原地域・自営業の家族従事者・配偶者あり)
- ・この町で男女共同参画といってもムリだと思う。男尊女卑的な考えは根深くあると思います。(30歳代・女性・高野地域・自営業の家族従事者・配偶者あり)
- ・ほとんどの男性は「育児」が漠然としていて何をすればいいのかわからないのではないのでしょうか。夫は指示すれば家事、育児も手を貸してくれます(自ら進んではしませんが…) (30歳代・女性・東城地域・自営業の家族従事者・配偶者あり)
- ・今の若い親たちの中には、子どもをおもちゃにしているのではと思うニュースが多々あり、不安になります。次の世代を担う大切な宝です。親の都合や勝手に子どもを悲しみ、淋しさにあわせるのはあってはならない事。せめて幼児期(就学前まで)は、愛情いっぱい育てあげたいです。その為、社会の協力も必要かもしれませんが、親教育も必要だと思います。昔は同居し、親から学ぶことが多かったのですが、核家族の多い中、少ない知識、本で学ぶ知識より、人々とのコミュニケーションも必要だし、人とのふれ合いが大切だと思います。でもまずは親(教育)育てかな?! (30歳代・女性・庄原地域・自営業主・配偶者あり)
- ・昔に比べたら、男性の育児参加は本当に自由になったと思う。それでも参加しないという事は、意識の持ちようがないということとで、周りが色々した所であまり変わらないように思います。(30歳代・女性・東城地域・被雇用者・配偶者あり)

- ・よくわからないが、うちの場合働くほうが優先なので仕事で夫は忙しく、子育てにあまり関われなくかわいそうな気がする。しかしながらいざ暇があればよく子どもと関われるかどうか勝手な関わり方しかできないと思うし、料理もインスタントしか作らないと思う。意識も低い。(作ってくれるだけでもよいが) (30歳代・女性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・子育てにしても、介護にしても、今、そこに関わっている人の関心はとても高いのですが、そこから一歩離れてしまうとそれがとても難しくなると思います。社会全体のこととして、捉えられるようになるためには、どうしたらよいのかと思います。(30歳代・女性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・各企業や施設等、子育て中の人々がストレスを溜め込まないよう、職場で配慮すること。大きなところではあるかもしれないが、中小企業の間管理職は、残業もあるが手当がでていない現状がある。金銭的な報いがあればよいのだが、時間も無い、お金もないでは…。そろそろ次の子を作ろうか…となかなか思えません。(30歳代・女性・口和地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・私は、逆の意見を持っています。男、女それぞれ能力や本能などやはり違っているのだから、それを生かすべきだと思う。子育て中、父親と母親は、子どもにとってやはり存在は違います。なんでもかんでも男女平等にするのがよいとは思いません。それだから、男の人と同じように女の人が働かなければ育児ができず、そのため保育所は入所児の低年齢化、長時間化(早朝～延長)が進み、1対1で”よしよし”としっかり抱っこしてもらいたい乳児期にそれがしてもらえず、愛情不足の子が多くなり、今のような世の中になってしまっているのではないのでしょうか (30歳代・女性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・最近なんとなく、ですが女性が性の立場が弱いことで生まれる悲劇が多い気がする。(DV や望まない妊娠の末、一応結婚したもののすぐ離婚したり又、籍も入れてもらえず経済的支援もないままシングルマザーになる、など)前向きに頑張っている人ばかり取り上げられているが、現実はとても厳しいと思う。授かった命というのは正しいが、自分は望まれなかったのではないかと、後になってその子どもが思い知らされるのは中絶以上に残酷であると思う。虐待死する子どものニュースを見るたびに胸が痛い。命の大切さ、誕生のすばらしさと同時に避妊の大切さや、妊娠→結婚は社会的に、経済的にこういうものである、という現実も伝えるような性教育が必要ではないでしょうか。(30歳代・女性・西城地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・庄原市の男女共同参画施策については、正直、知識がないので意見が出せないのですが、このアンケートを通じて思った事は、男女共同参画を将来実現するには、まず個々の家庭の環境が大事ではないかということです。両親が互いに思いやり、助け合っている姿を見て育てば、子どもそれを当たり前のこととしてとらえ、自分もそのようにしてくれるのではないかと思います(そう願います)。あとは、サービス充実のために深夜や、土日まで稼働している業種が増えたため、子育て(父親の参加)が難しくなっていると思います。そういう社会が変わらないものかと思います。(30歳代・女性・総領地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり)
- ・男性でも育児参加が出来る行政や社会であってほしい。子育てにだれでも参加できるようにしてほしいです。(30歳代・女性・口和地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり)
- ・自分自身が子どもの頃は、両親共働きでも、祖父母が面倒を見てくれた。それが理想的な形だと思う。今では、社会全体が行政サービスに頼りすぎの所もあるし、環境自体も整っていないのも事実です。  
親子世代のつながりも大事だと思うが、孫と祖父母のつながりが広げられる交流があればと思います。(又、保育所関係の役員をさせていただいた時に、庄原地域と旧郡部地域の偏りを感じました。市民生活部だけではなく、他部でも感じます。今後、この偏りを少しでもなくすような努力もお願いします。)(30歳代・男性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり)
- ・夫婦ともにパートだと、とても生活できない。今はこんな世の中ではないのでしょうか。男女共同参画の実現は、時間や生活におたがいに余裕がないと難しいと思います。これではいけないと思いつつも…。(30歳代・男性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり)

・やらなかったら、大叱られ。やればやったで、大叱られ。いったいどうすればいいのかわからない。

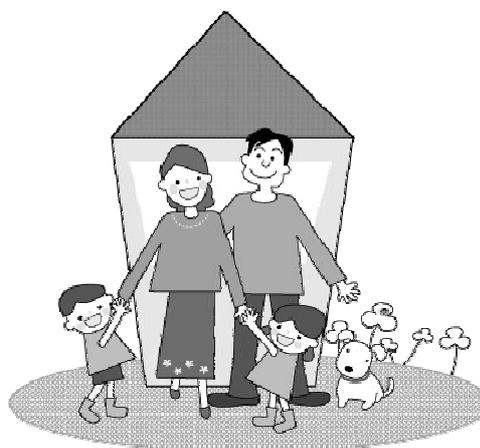
基本的に男女共同参画といえば、男の意識改革が主のような感じがするが、同じくらい女も意識改革が必要なのではと、つくづく思う。どうにか実現させたいと思うが、どうにもならない…。(30歳代・男性・庄原地域・被雇用者・配偶者あり)

#### アンケートについて( 2件)

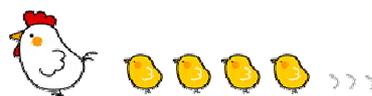
---

・アンケートがむずかしかった…よくわからない。もっとわかりやすいアンケートにしてほしい…(30歳代・女性・東城地域・自営業主・配偶者あり)

・アンケートの質問内容が理解しづらかったです。(30歳代・女性・東城地域・被雇用者のうち非正社員・配偶者あり)



## 庄原市男女共同参画アンケート



- 【アンケートの提出締め切り】 3月21日(金)(必着)  
【提出の方法】 ①保育所・幼稚園へ持っていく  
②ポストへ投函する(切手を貼る必要はありません)

アンケートへのご協力について、よろしくお願いします！！

### まず、あなたご自身のことについておたずねします

Q1.あなたの年齢を教えてください

1. 20歳代以下    2. 30歳代    3. 40歳代    4. 50歳代以上

Q2.あなたの性別を教えてください

1. 男性    2. 女性

Q3.あなたの住んでいる地域を教えてください

1. 庄原地域    2. 西城地域    3. 東城地域    4. 口和地域  
5. 高野地域    6. 比和地域    7. 総領地域    8. その他 (                      )

Q4.あなたの職業を教えてください

1. 自営業主(農林水産業、商工サービス業、自由業)  
2. 自営業の家族従事者(農林水産業、商工サービス業、自由業)  
3. 被雇用者(会社員、公務員、その他勤め人)  
4. 被雇用者のうち非正社員(パート、アルバイト、契約社員)  
5. 在宅就業・内職  
6. 家事専業  
7. 学生  
8. 無職  
9. その他 (                      )

Q5.配偶者の有無を教えてください

1. 現在配偶者がいる(婚姻届を出していない場合も含む)  
2. 結婚していたが、離婚・死別等で現在は配偶者はいない  
3. 結婚していない

Q6.ご家族の世代構成を教えてください

1. あなたと子ども(2世代同居)  
2. あなたの親とあなたと子ども(3世代同居)  
3. その他 (                      )

※ アンケートは無記名ですので、名前を記入する必要はありません。また、調査結果は統計的に処理しますので、ご回答いただいた方を特定しご迷惑をおかけすることはありません。また、庄原市の男女共同参画の推進業務以外に使用することはありません。

**家庭や地域における役割分担についておたずねします**

問1 家庭において、収入を得ることや家事、子育て、介護・看護、地域活動への参加など、誰が担当するのが望ましいと思いますか。①～⑪の項目について、近いもの1つを選んで○をつけてください。

|                | 主に夫 | 夫婦が協力して | 主に妻 | 家族が協力して | その他 |
|----------------|-----|---------|-----|---------|-----|
| ①収入を得ること       |     |         |     |         |     |
| ②掃除、洗濯         |     |         |     |         |     |
| ③食事のしたく        |     |         |     |         |     |
| ④食事の後片付け、食器洗い  |     |         |     |         |     |
| ⑤子育て           |     |         |     |         |     |
| ⑥学校などの行事への参加   |     |         |     |         |     |
| ⑦介護、看護         |     |         |     |         |     |
| ⑧日常の家計の管理      |     |         |     |         |     |
| ⑨高額の買い物、資産の管理  |     |         |     |         |     |
| ⑩近所とのつきあい      |     |         |     |         |     |
| ⑪町内会など地域活動への参加 |     |         |     |         |     |

配偶者のいる方へおたずねします。実際にあなたの家庭では、誰が担当していますか。

|                   | 主に夫 | 夫婦が協力して | 主に妻 | 家族が協力して | その他 |
|-------------------|-----|---------|-----|---------|-----|
| ①収入を得ること          |     |         |     |         |     |
| ②掃除、洗濯            |     |         |     |         |     |
| ③食事のしたく           |     |         |     |         |     |
| ④食事の後片付け、食器洗い     |     |         |     |         |     |
| ⑤子育て              |     |         |     |         |     |
| ⑥学校などの行事への参加      |     |         |     |         |     |
| ⑦介護、看護(子どもの病気を含む) |     |         |     |         |     |
| ⑧日常の家計の管理         |     |         |     |         |     |
| ⑨高額の買い物、資産の管理     |     |         |     |         |     |
| ⑩近所とのつきあい         |     |         |     |         |     |
| ⑪町内会など地域活動への参加    |     |         |     |         |     |

問2 あなたは現在の配偶者と結婚する前に親元を離れてひとりで生活した経験がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 自炊など身のまわりのことをすべて自分でしたことがある(下宿生活、留学など)
2. 親元を離れた経験はあるが、食事など一部はまかないつきだった(寮生活など)
3. 親元から、結婚するまで一度も出た経験がない

問3 あなたの育った家庭では、男性が家事・子育てをすることに対してどのような考えを持っている(持っていた)と思いますか。近いものに1つ〇をつけてください。

|   |                     | 家事 | 子育て |
|---|---------------------|----|-----|
| 1 | 当然やるべきだと思う          |    |     |
| 2 | やりたくないができるだけやるべきである |    |     |
| 3 | できるだけ女性に任せたい        |    |     |
| 4 | 女性がやるべきである          |    |     |

問4 あなたは子ども時代(小学校～高校生くらいの間)、家庭で「お手伝い」をしましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

|               |               |
|---------------|---------------|
| 1. よくやった      | 2. たまにやった     |
| 3. ほとんどやらなかった | 4. まったくやらなかった |

問5 あなたが平日にご家族と一緒に夕食を取るのは平均して週何回くらいですか。あてはまるものを1つ選んでください。

|                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1. ほぼ毎日一緒に食べている | 2. 3～4 回程度         |
| 3. 1～2 回程度      | 4. 一緒に食べることはほとんどない |

問6 配偶者のいる方へおたずねします。{(女性の場合)あなたの夫(男性の場合)あなた}は日常、家庭で次のことについてどれくらいしていますか。最も近いものに1つ〇をつけてください。

A. ほとんど毎日する    B. 週に3～4回する    C. 週に1～2回する    D. ほとんどしない

|    |                        | A | B | C | D |
|----|------------------------|---|---|---|---|
| 1  | 買い物をする                 |   |   |   |   |
| 2  | 食事のしたく(料理など)をする        |   |   |   |   |
| 3  | 食事の後片付け(皿洗いなど)をする      |   |   |   |   |
| 4  | 掃除をする                  |   |   |   |   |
| 5  | 子どもといっしょに遊ぶ            |   |   |   |   |
| 6  | 子どもをお風呂に入れる            |   |   |   |   |
| 7  | 保育所や幼稚園、放課後児童クラブの送迎をする |   |   |   |   |
| 8  | 子どものおむつがえや着替えをする       |   |   |   |   |
| 9  | 子どもの勉強をみる              |   |   |   |   |
| 10 | その他(具体的に )             |   |   |   |   |





問 10 あなたが有休をとるときは、どんなときですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1. 参観会・運動会などの子どもの行事 | 2. 地域の行事（お祭り、会合、草刈りなど） |
| 3. 子どもや配偶者の病気       | 4. 自分の病気               |
| 5. レジャー（家族旅行など）     | 6. 自分のつきあい             |
| 7. 配偶者のつきあい         | 8. 自分の趣味               |
| 9. 冠婚葬祭             | 10. 実家の用事              |
| 11. その他（具体的に        | ）                      |

問 11 「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と家庭の調和)この言葉をご存知ですか。あてはまるものを選んでください。

- |                |
|----------------|
| 1. よく知っている     |
| 2. 言葉は聞いたことがある |
| 3. 知らない        |

問 11-1 仕事と家庭のバランスのとれる働き方について、ご意見があればご自由にご記入ください。

|  |
|--|
|  |
|--|

**子育てについておたずねします**

問 12 あなたは、子どもにどのような人物に育ってほしいと思いますか。①～⑪の項目について、男子、女子それぞれ、特に期待するものに3つまで○をつけてください。

|                   | 男子 | 女子 |
|-------------------|----|----|
| ①家庭・家族を大切にする人     |    |    |
| ②仕事に生きがいを感じる人     |    |    |
| ③仕事以外の生きがいを持っている人 |    |    |
| ④生活力のある人          |    |    |
| ⑤学歴が高い人           |    |    |
| ⑥幅広い知識や教養が豊かな人    |    |    |
| ⑦社会の役に立つことができる人   |    |    |
| ⑧行動力がある人          |    |    |
| ⑨礼儀正しい人           |    |    |
| ⑩思いやりや気配りのできる人    |    |    |
| ⑪個性や能力を発揮できる人     |    |    |
| ⑫その他（             |    |    |
| ）                 |    |    |



問13 あなたは、子育てについて、どのように考えますか。あてはまるものいくつかでも○をつけてください。

1. 男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる
2. 男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる
3. 男女ともに、社会人として自立できるように育てる
4. 男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる
5. 男は外で働き、女は家庭を守るように育てる
6. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる
7. 子どもの個性に応じて育てる
8. その他 ( )
9. わからない

問14 あなたは平日、育児に関わる時間は平均して1日何時間くらいですか。あてはまるものを1つ選んでください。

- |            |              |            |
|------------|--------------|------------|
| 1. 30分未満   | 2. 30分～1時間程度 | 3. 1～2時間程度 |
| 4. 2～3時間程度 | 5. 3～5時間程度   | 6. 5時間以上   |

問15 あなたが育児のために協力をお願いしている人、利用している施設・サービス等のすべてに○をつけてください。

- |                   |                  |             |
|-------------------|------------------|-------------|
| 1. 同居している家族       | 2. 別居している家族      | 3. 近隣の知人    |
| 4. 自宅近くの保育所       | 5. 自宅近くの幼稚園      | 6. 事業所内託児施設 |
| 8. ベビーシッターや家政婦(夫) | 9. 地域のファミリー・サポート |             |
| 10. その他(具体的に: )   |                  |             |

問16 安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うものに3つまで○をつけてください。

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| 1. 出産・育児に対する経済的な支援の拡充                 |  |
| 2. 保育サービスの充実                          |  |
| 3. ファミリーサポート事業※や放課後児童クラブなど地域の子育て支援の充実 |  |
| 4. 子育て中の柔軟な勤務形態の普及                    |  |
| 5. 父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備         |  |
| 6. 出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり               |  |
| 7. 子育て中の親が相談・交流・情報交換できる場の提供           |  |
| 8. 子育て中の親のリフレッシュ支援                    |  |
| 9. ひとり親家庭に対する支援                       |  |
| 10. その他 ( )                           |  |
| 11. わからない                             |  |

※ファミリーサポート事業  
育児を応援してほしい人と育児を応援したい人が会員になり、相互に関わりあって安心して子育てをする相互援助活動。





庄原市男女共同参画アンケート調査結果[速報版]

〒727-8501 庄原市中本町一丁目 10-1

庄原市 女性児童課 男女共同参画係(※4月より部制廃止。調査票は3月時点のものです)

電話(0824)73-1243 FAX(0824)75-0195

Email [jidou-kyoudou@city.shobara.hiroshima.jp](mailto:jidou-kyoudou@city.shobara.hiroshima.jp)